

埼玉県文化財保存活用大綱(案)

県民の皆様の御意見をお寄せください。

「埼玉県文化財保存活用大綱(案)」に対する御意見をお待ちしています。
(巻末に別紙様式があります。)

郵送 〒330-9301 (住所は省略できます。)
埼玉県文化資源課 指定文化財担当宛て
FAX 048-830-4965
メール a6910-04@pref.saitama.lg.jp

- ※ いずれも件名を「埼玉県文化財保存活用大綱(案)への意見」としてください。
- ※ 必ず住所・氏名・連絡先の電話番号を明記してください。
- ※ 郵送、ファクシミリ、電子メールのいずれかの方法で提出してください。
電話等による口頭での意見はお受けできませんので、御了承ください。

- 御意見の募集期間：令和元年11月1日(金)～11月30日(土)(必着)
- いただいた御意見の概要と、それに対する県教育委員会の考え方などを公表します。
- 大綱案は埼玉県のホームページでも御覧いただけます。
<https://www.pref.saitama.lg.jp/soshiki/f2216/index.html>

埼玉県教育委員会

目 次

総論

1 大綱策定の趣旨	1
2 大綱の構成	2
3 大綱の位置付け	3
4 大綱の対象	3

第1章 本県の概要と特徴

1 地理・土地利用	5
2 地形・地質	5
3 生態系	5
4 今後の人口動態	6
5 歴史と文化	6
6 文化財の指定・選定等	8
7 これまでの本県文化財行政における保存活用	10

第2章 本県文化財を取り巻く課題

1 文化への興味関心	13
2 文化財の保存活用にかかる財政的な負担	13
3 文化財の保存活用を担う人材の確保	14
4 自然災害等の多発	15
5 市町村文化財行政や地域社会への支援	16
6 アニメやゲームとのコラボレーション、SNS活用などニーズの変化	16

第3章 今後の文化財の保存活用に関する考え方

1 基本的な文化財の保存活用の在り方について	17
2 博物館・美術館等について	17
3 地域における文化財等について	18

第4章 文化財の保存活用の目指すべき方向性と取組

1 文化財に関する理解を促し興味関心を高める	20
2 文化財を適切に保存する	22
3 文化財等を活用する	26

第5章 文化財等の保存活用の推進のための行政組織等

参考資料1	33
-------	----

参考資料2	59
-------	----

埼玉県文化財保存活用大綱(案)

総論

1 大綱策定の趣旨

文化財は様々な時代背景の中で、地域の人々の生活や風土とのかかわりにおいて生み出され、現在まで守り伝えられてきた財産である。また、歴史や文化等の正しい理解のために欠くことのできないものであり、豊かさの基盤となるものである。

長い歴史を経て育まれてきた地域の文化財は地域文化の精華であり、次世代へ確実に継承していくことが私たちの責務である。

本県には、寺社、祭り、古墳など長年大切に守り続けた多くの文化財があり、地域の教育などに大きな役割を果たしているとともに人々の心のよりどころになっている。

中でも、金錯銘鉄剣で著名な武蔵埼玉稻荷山古墳出土品（行田市）や歓喜院聖天堂（熊谷市）、ユネスコの無形文化遺産の細川紙（小川町・東秩父村）、秩父祭屋台（秩父市）、田島ヶ原サクラソウ自生地（さいたま市）、平林寺境内林（新座市）、川越市川越伝統的建造物群保存地区など国や県により指定等がされている文化財がある。また、「和装文化の足元を支え続ける足袋蔵のまち行田」が日本遺産に認定されている。

これまで、本県では文化財保護法や文化財保護条例に基づき有形・無形の文化財を指定し、国・県指定文化財の保存修理や復元整備、後継者養成に関する補助など保存活用に関する措置を体系的に実施してきた。

また、博物館・美術館等の施設（以下、博物館・美術館等とする*1）における調査研究、資料の収集・保管、展示、教育普及活動などを通し適切な保存活用（*2）に努めてきた。

しかし、少子高齢化や都市化などの社会状況の変化や多発する災害などにより、民俗芸能の担い手不足や一部の文化財の保存の危機など文化財の継承に懸念が生じている。

また、その一方で文化財等が持つ力をまちづくりや地域振興、観光振興などへさらに活かしていくことへの期待は増大している。

このことから、県教育委員会は平成30年度に事務局組織を改編し、文化芸術の学校教育等での活用促進による地域文化の次世代への継承とともに、大規模なスポーツイベント等の機会を生かして様々な機関と連携し、本県の文化を世界に発信するため文化資源課を設置した。

また、「埼玉県まち・ひと・しごと創生総合戦略」においても、文化芸術などの地域資源の活用や伝統行事の維持・継承による魅力の発信が施策に位置付けられ、文化財の活用推進に取り組もうとしているところである。

このような文化財を取り巻く課題や期待は、本県のみではなく全国的なものであり、国は地域における文化財の計画的な保存活用を促進するため平成30年に文化財保護法を改正した。

改正文化財保護法では、都道府県はその域内における指定・未指定の文化財の計画的な保存活用の促進や地方文化財保護行政の推進の強化を図るために、総合的な施策の大綱を策定することができることと規定された。また、市町村は都道府県の大綱を勘案し、文化財の保存活用に関する総合的な計画(文化財保存活用地域計画)を策定することができることとなった。

そこで、本県では、すべての県民が地域の文化財等と触れ合う機会を増やし、その価値を知って地域に愛着と誇りを深めていただくとともに、地域総がかりで文化財の適切な保存活用の促進を目指し「埼玉県文化財保存活用大綱(以下、「大綱」という)」を策定することとした。

この大綱は、県教育委員会、県内の博物館・美術館等、文化財の所有者のほか地域において文化財の保存活用にかかわる全ての方々、学校や社会教育機関、文化財と関係のある行政機関などが、文化財の保存活用についての意義や方向性を共有しながら、それぞれの地域や役割に応じ文化財の保存活用に取り組んでいただくための基本的な方向性を定めるものである。

これら関係する方々に大綱について御理解いただくとともに、各市町村においては大綱の内容を勘案し、地域の課題や文化財の状況を踏まえ文化財保存活用地域計画の作成及びその推進に努めていただきたい。

*1 博物館法で定められた手続きを経て登録を受けたもの(登録博物館)や、博物館法で定められている博物館の事業に類する事業を行う施設で、文部科学省令の定めにより博物館に相当する施設として指定されたもの(博物館相当施設)のほか、博物館と同種の事業を行うが登録や指定を受けていないもの(博物館類似施設)を含む。

さらに歴史的・文化的に重要な文書、地図、写真、映像などの記録資料を保存し、利用提供する機関である文書館を含んでいる。県教育委員会の所管施設としては8施設が該当する(第5章表2)。

*2 文化審議会文化財分科会企画調査会(2017)『中間まとめ』では、文化財の保存とは「文化財としての価値を後世に向けて確実に維持すること」とし、活用とは「文化財としての価値を踏まえ適切に現代社会に生かすこと」と捉えている。

2 大綱の構成

「総論」では「1 大綱策定の趣旨」において大綱策定に至った背景と目的を主に述べている。また、「3 大綱の位置付け」では、大綱の文化財保護法上の位置づけ及び第3期埼玉県教育振興基本計画など県の他の計画との関係を示している。「4 大綱の対象」では、本大綱が取り扱う対象(範囲)と用語の定義づけを行った。

「第1章 本県の概要と特徴」では、「1 地理・土地利用」、「2 地形・地質」、「3 生態系」、「4 今後の人口動態」、「5 歴史と文化」により、文化財の保存活用の方向性を検討する際に基本となる情報を整理した。さらに「6 文化財の指定・選定等」では本県の文化財指定、選定等の現状を、「7 これまでの本県文化財行政における保存活用」では、これまで本県が行ってきた保存活用の取組について整理した。

「第2章 本県文化財を取り巻く課題」では、第1章で述べた概要と特徴、及びその他

の状況を踏まえ課題を整理した。課題として「1 文化への興味関心」、「2 文化財の保存活用にかかる財政的な負担」、「3 文化財の保存活用を担う人材の確保」、「4 自然災害等の多発」、「5 市町村文化財行政や地域社会への支援」、「6 アニメやゲームとのコラボレーション、SNS活用などニーズの変化」を提示している。

「第3章 今後の文化財の保存活用に関する考え方」では、保存と活用を文化財保護の両輪と考え、これまでの文化財活用の幅を拡げ、文化財を地域資源として消耗することなく積極的に活用し、その成果を保存に結び付けていくという考え方を「1 基本的な文化財の保存活用の在り方について」、「2 博物館・美術館等について」、「3 地域における文化財等について」の3つの視点から記載した。

「第4章 文化財の保存活用の目指すべき方向性と取組」では第2章で示した課題に対応して「1 文化財に関する理解を促し興味関心を高める」「2 文化財を適切に保存する」「3 文化財等を活用する」の3つの視点を設け、取組方針や取組を記載した。

「第5章 文化財等の保存活用の推進のための行政組織等」では、文化財等の保存活用を推進する体制について基本的な考え方を述べ、現在の体制を関係課、関係団体を含め記載した。

3 大綱の位置付け

(1) 文化財保護法

第183条の2第1項に定められる「文化財の保存及び活用に関する総合的な施策の大綱」。

(2) 第3期埼玉県教育振興基本計画

施策28に定める「伝統文化の保存・活用・価値の再評価」のための方針。

このほか、埼玉県5か年計画、埼玉県まち・ひと・しごと創生総合戦略、埼玉県文化芸術振興計画、埼玉県景観計画、第2期埼玉県観光づくり基本計画において伝統文化や文化財、博物館・美術館等に関連した取組等が記載されている。

4 大綱の対象

本大綱の対象とするものは、以下の説明のうち(4)文化財等とした範囲である。

(1) 国県指定等文化財

文化財保護法第2条または埼玉県文化財保護条例第2条で定義されている有形文化財、無形文化財、民俗文化財、記念物、文化的景観、伝統的建造物保存地区のうち、重要なものなどが国または県によって指定、選定、登録、選択されたもの。

(2) 指定等文化財

国県指定等文化財及び市町村の条例により指定、登録などの保護措置が講じられているもの。

(3) 文化財

指定等文化財及び文化財保護法で規定されている埋蔵文化財、文化財の選定保存技術、国や県、市町村による保護措置が講じられていないが、地域にとって歴史上などの価値を有する未指定文化財。

(4) 文化財等

文化財及び囲碁、将棋、華道、茶道、日本舞踊、郷土食、古武術、昔話伝説など、地域的歴史的に重要な文化的所産。

第1章 本県の概要と特徴

1 地理・土地利用

埼玉県は、40市22町1村からなる関東の中西部に位置する内陸県で、東京都など1都6県に隣接し、全域が都心から約100kmの圏域に含まれる。また、県土の広さは東西約108km、南北約70kmである。面積は約3,798km²で国土の約1%に当たり、全国で39番目の広さである。

県土面積3,798km²のうち、およそ、森林が32%、農地が20%、宅地が20%、道路が9%、水面・河川・水路が5%、その他が14%で、農林地の面積が、県土の52%を占めている。一方、本県の可住地面積（平成29年10月1日現在）は、2,584.6km²（県土の68.1%）で、全国の可住地面積比率（32.9%）の約2倍と高く、また、東京に隣接しているという地理特性等から、人口の急増による農林地の減少と急速な都市化が、近年鈍化しつつも依然として進んでいる（埼玉県（2019）『令和元年度 埼玉の土地』より）。

2 地形・地質

県内の地形は、大きく西側の関東山地と東側の関東平野に分けられる。山地の中央には秩父盆地があり、その南西側は奥秩父山地、東側は外秩父山地、北側は上武山地と呼ばれている。山地を構成するのは日本列島の土台となる中・古生代の岩石である。また、石灰岩が点々と分布し、特徴的な生物相が成立している。

山地と平野の間には、児玉丘陵、比企丘陵、加治丘陵などの丘陵や入間台地、武蔵野台地、大宮台地などの台地が広がる。これらは、土台となる岩石の上に新生代の堆積物が厚く堆積して形作られたものである。台地上には、火山灰土である関東ローム層も堆積している。

県東部には荒川低地、中川低地、加須低地、妻沼低地が広がる。これらはいずれも荒川や利根川の氾濫原であり、度重なる氾濫により肥沃な土が上流から運ばれて作物栽培に適した土壌が堆積し、水田地帯形成の一因となった。また、河川に沿って自然堤防が発達したほか、古利根川流域には河畔砂丘も分布している。



図1 埼玉県の地形区分

3 生態系

本県は、日本列島の中央付近において、生物の移動と消長の舞台となってきた山岳地帯の一角に位置する。また、標高差が大きく、深く削られた谷などの複雑な地形を持つ。そ

のため、面積が比較的狭く、火山や海岸といった環境を欠くにもかかわらず、生物相の豊かな地域である。

県内の植生帯を概観すると、標高 1,600m以上の亜高山帯にはコメツガなどの亜寒帯常緑針葉樹林の原生林が比較的多く残されている。標高がやや低くなる山地帯は温帯夏緑樹林が中心となり、上部ではミズナラやブナ等が、下部ではコナラなどが中心となる。山地下部から台地・丘陵、低地では、暖温帯照葉樹林が成立する植生帯である。

なお、実際には、亜高山帯の原生林や険しい場所を除いて、人の手の入っていない自然環境はほとんどなく、炭焼き等に利用されてきたクヌギ・コナラ等の雑木林や、西川林業地に代表されるスギ・ヒノキの人工林、細い谷を利用した谷津田など、人のくらしと関わりながら形作られてきた自然環境が多く見られ、人為的攪乱により多様な生物相を呈する。また、長く保護されてきた社寺林などでは、各地域の潜在自然植生を知ることができる。そして、こうした様々な環境に適応した動物が生息している。県内に生育する在来の植物は約 4,800 種、動物は約 12,300 種とされ、多くは昆虫類等の無脊椎動物である。

近年の急激な都市化の進展等によって生じる様々な自然環境の変化が、野生動植物に大きな影響を及ぼしており、県のレッドデータブックでは、動物 842 種、植物 1,031 種を絶滅のおそれがある種としている。ニホンジカやイノシシ等一部の野生動物の増加や、ブラックバスやアライグマ等の外来生物の増加も減少の一因となっている。

4 今後の人口動態

本県の人口は、今から 100 年前の大正 9 年に 1,319,533 人であったが、令和元年 8 月 1 日の推計人口は 7,337,045 人と全国の都道府県で 5 位の規模であり、100 年間で 5.6 倍となった。これは 1960 年代から 1970 年代にかけての高度経済成長期に首都圏に人口が集中したことによるものである(図 2)。

しかし、一貫して増加してきた本県の人口は間もなく減少に転ずると見込まれ、平成 27 年から令和 17 年までに約 5%の人口が減少する見通しである。

さらに、平成 27 年の高齢化率は 24.8%と 4 人に 1 人が高齢者となっており、65 歳以上の人口は令和 22 年まで増加すると予測されている。

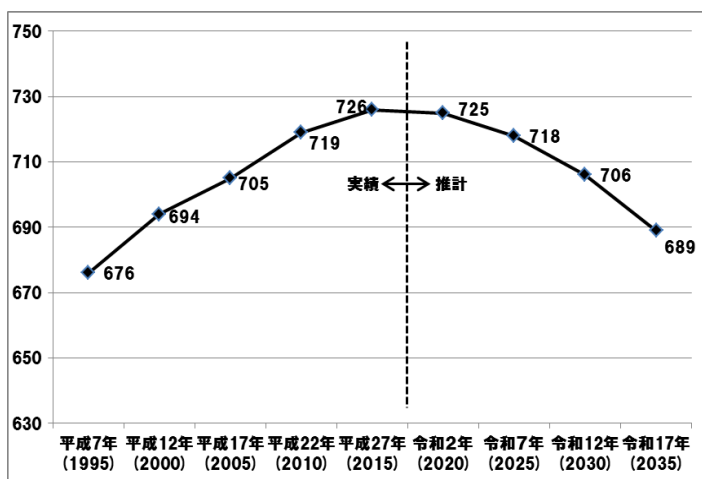


図2 埼玉県の人口推移

埼玉県 5 年計画(平成 29 年度-平成 33 年度)をもとに作成

5 歴史と文化

現在は海のない埼玉県であるが、日本列島が現在の形となる以前の約 1,700 万年前に現在の秩父盆地を中心とした関東山地の東縁に「古秩父湾」と呼ばれる海が広がっていた。古秩父湾は約 200 万年間存続し、約 1,500 万年前に姿を消した。この太古の海の誕生から

消滅までの海の盛衰の記録が秩父地域の地層に残され、この海に生息した生物化石も多数発見されている。

日本列島の地形がほぼ現在の形になった以後、県域には山地、丘陵地、台地、低地といった変化に富む地形及び大小の河川や池沼が形成され、そこに数多くの動植物が生息・生育した。人々が生活を営むようになってからは、その恵みを背景とした様々な生業とそれをもとにした多様な歴史文化が形成されてきた。

山地である秩父地域では、山間の谷筋ごとに生活が営まれ、それぞれ独自の習俗が生まれたが、近代以降の都市化の影響をあまり受けてこなかったことから、多くの祭礼や民俗行事が残され「民俗の宝庫」とも呼ばれている。現在も多くの自然林が残り豊富な生物相が成立している。また、金、鉄、銅、鉛などを含む多種の鉱物を産出する秩父鉱山は江戸時代から採掘が行われていたことが知られている。

西部の丘陵地に営まれた古代の窯業も本県歴史文化の特徴である。登り窯築造に適した斜面と燃料となる豊富な雑木林の存在から古代の武蔵国四大窯跡のうち3つが県内に営まれた。これらの窯の生産品は西関東を中心に広く関東一円に流通したことが知られている。丘陵地や台地には現在も多くの雑木林が残り、多様な野生の動植物が生息・生育している。

また、日当たりの良い平坦な台地や緩やかな斜面地が多いこの地域では、江戸時代以降、養蚕が農家の副業として行われてきたが、幕末の横浜開港を契機に生産が拡大され、昭和前期まで産業の中心となった。

県東部や南部の低地部は、氷河期が終了し温暖化が進行した縄文時代前期に海水面が上昇し、台地縁辺まで海となっていたことが同時期の貝塚の分布から明らかとなっている。かつて河川の乱流地帯であった東部の低地には河畔砂丘も形成されている。

近世以降この地域では水田とその裏作である木綿栽培に伴う綿織物が広く行われ、それに伴い藍染や足袋製造などの産業が盛んとなっていった。

この他、「川の国」とも呼ばれている埼玉県は、利根川や荒川といった大河川とその支流である多くの河川があり、ムサシトミヨのような特徴的な生物も生息している。

西日本が政治、経済、文化の先進地となる弥生時代から古代にかけては、本県域をはじめとする東日本の社会はそれらの地域との関係の中で発展を遂げるようになった。

西日本の文物が東日本にもたらされるルートは、東海地域から南関東を経由するルートと、東海から中部地方を経て北関東を経由するルートの二つが中心となるが、県域は両ルートの接点となる位置にあり、古代から中世にかけて南関東と北関東の政治勢力との関わりの中で歴史が刻まれていった。古墳時代には、東日本でも屈指の大古墳群である埼玉古墳群が、東京湾から内陸に向かう河川交通の要衝であり、かつ、当時東日本で最も大きな権力を持っていたとされる毛野(現在の群馬県)との境界付近に営まれた。

中世の幕開けとなる源頼朝による鎌倉幕府設立を埼玉県域に本拠を置く武蔵武士が御家人として支えた。彼らはその後各地に守護・地頭として赴任し、その所領を全国に拡大していく。

また、中世の県域は、南関東と北関東の勢力がぶつかり合う争乱多発地域となり、数多

くの城館が築かれ、多くの中小武士団が活躍した。彼らにゆかりの文化財も多く残され、中でも供養塔である板碑を始めとする中世石造物は全国屈指の数が確認され、文字資料の少ない当時の県域の様子を知る重要な手掛かりとなっている。

江戸時代以降は日本の政治、文化、産業の中心であり、一大消費地でもある江戸・東京の隣接地として埼玉県の産業がその発展を下支えしたほか、江戸東京の文化に影響を受けた民俗文化が育まれた。

さらに、江戸の防災や食料確保のため、治水事業や野火止用水などの用水路の開削や三富新田、見沼溜井の新田開発などが行われた。

江戸の文化の影響は社寺彫刻にも及んだ。日光東照宮に見られる装飾豊かな彫刻は、江戸の大名屋敷でも取り入れられ、その後、江戸近郊の社寺にも影響を与え各地に広まっていった。

熊谷市妻沼の歓喜院聖天堂もその一つであるが、日光東照宮の改修を手掛けた石原吟八郎（吟八）とその門人による華麗な彫刻は、高度な技術が駆使された近世装飾建築の頂点をなす建物であること、また、そのような建物の建設が民衆の寄付によって成し遂げられた点が、文化史上高い価値を有するとの評価を受け、平成 24 年に国宝となった。

江戸時代に城下町として栄えた川越は、明治以降に東京の発展とともに商都として繁栄し、財力を背景に防火対策を施した重厚な蔵造りの街並みが形成され現在も小江戸川越として多くの観光客を集めている。

明治維新後は、近代建築に欠かせない煉瓦を供給するために、近代日本経済の父と言われる渋沢栄一や益田孝等により設立された日本煉瓦が深谷に工場を建設したほか、大消費地である東京の需要に大量生産をして応えるため、織物や鋳物産業を中心に産業の近代化が進んだ。

第二次世界大戦後、東京への一極集中の進行による、県南部を中心とした人口の増加や産業の近代化により地域社会が変容し、県民の地域の歴史や文化財への関わり方も変わりつつある。

6 文化財の指定・選定等

県内には国県指定等文化財が 1,053 件(令和元年 9 月 30 日現在)ある。このうち、国の指定等が 332 件、県の指定等が 721 件である(表 1)。

また、本県には条例により史跡に準じる旧跡という独自の文化財の種別がある。旧跡は、戦後の文化財保護法制定や県の文化財保護条例の制定過程の中で、戦前に指定された文化財を見直す中で範囲を定めにくいものや、歴史的な実証性が確認できないが地域で守り伝えられているもの等を、過去の文化財保護の歴史も踏まえ、文化財の種別として設定したもので現在 80 件が指定されている。

このほか、国指定史跡、県指定史跡、旧跡以外の埋蔵文化財包蔵地の中から、特に歴史上、学術上価値の高いもの 161 件を「重要遺跡」に選定している。

なお、本県教育委員会が所管している博物館・美術館等の施設は 8 施設あり、文化財に

関する調査研究、資料の収集・保管、展示、教育普及活動を担っている（第5章表2参照）。

表1 本県の国県指定等文化財数（令和元年9月30日現在）

種 別	国	県	国・県計
指定有形文化財	重要文化財80 (うち国宝 5) 例 国宝 歎喜院聖天堂 稲荷山古墳出土品 法華経一品経 重要文化財 旧遠山家住宅 日本煉瓦製造(株)煉瓦製造 施設	335 例 平林寺惣門、仏殿など 矢島家 円空仏群 喜多院日鑑 笑う埴輪	415
指定無形文化財	3 例 細川紙	2 例 江戸木目込人形	5
指定民俗文化財	14 例 有形民俗文化財 秩父祭屋台 北武蔵の農具 無形民俗文化財 川越氷川祭の山車行事	76 例 有形民俗文化財 田子山富士塚 飯能の西川材関係用具 無形民俗文化財 塚越の花まつり	90
指定記念物	39 (うち特別天然記念物 3) 例 史跡 埼玉古墳群 名勝 長瀨 天然記念物 御嶽の鏡岩(特別天然記念物) 古秩父湾堆積層及び海棲哺乳 類化石群	278 例 史跡 野火止用水 名勝 越生の梅林 天然記念物 狭山市笹井産出 アケボノゾウ骨格化石	317
選定伝統的建造 物群保存地区	1 川越伝統的建造物群保存地区		1
選定保存技術	3 例 漆刷毛製作		3
登録有形文化財	174 例 十万石ふくさや行田 本店店舗		174
登録有形民俗文 化財	3 例 狭山茶の生産用具		3
登録記念物	1 旧山崎氏別邸庭園		1
選択無形民俗文 化財	14 例 脚折の雨乞い	30 例 伊豆沢の天気占い	44
合 計	332	721	1053

この他、埼玉県独自の制度として旧跡80件、県選定重要遺跡161件がある。

7 これまでの本県文化財行政における保存活用

県では、昭和44年のさきたま資料館(現さきたま史跡の博物館)の設置を皮切りに県立の博物館・美術館等の整備を進め、現在8つの施設を県教育委員会が所管している。

これらの施設による資料収集、調査研究、展示、教育普及事業や、県教育委員会事務局による文化財の修理や整備への補助事業、普及事業を通じて文化財等の保存活用を行っている。

県内市町村の文化財保護行政は、高度経済成長期の開発から文化財を守るため、埋蔵文化財専門職員を中心に配置が進められた結果、全国的にも早期に整備が始められた。現在、市町村で文化財行政に携わっている埋蔵文化財の専門職員数は180名を超え、福岡県、大阪府に次ぐ全国3位の人数である(平成30年度文化庁調査)。

また、市町村立や私立の博物館・美術館等の設置も進められ、県内の博物館・美術館等で構成される埼玉県博物館連絡協議会には現在82館が加盟している。

自治体への専門職員や学芸員の配置が整備されていく中で、専門的、学術的知見に基づき文化財の歴史的、学術的な価値を発見し、展示や普及活動でその魅力を発信する取組が進められていった。

市町村と県が連携した文化財関係団体の設立も古く、昭和36年には市町村の文化財保護審議会委員や学識者による埼玉県文化財保護協会の設立をはじめとして、昭和49年には埼玉県博物館連絡協議会と歴史的公文書や古文書等の記録資料の保存・公開に係る県・市町村の関係機関を会員とする埼玉県地域史料保存活用連絡協議会が発足した。これらの団体では文化財関係職員の研修や県民を対象とした講座やイベントなどの開催だけではなく、災害時の文化財レスキュー活動などを通じて埼玉県における文化財の保存活用に大きな役割を果たしてきた。

(1) 保存のための県による取組

ア 文化財の調査

昭和40年代以降、国、県、市町村が一体となり県内各分野にわたる文化財の悉皆調査などの基礎的な調査を行ってきた(参考資料1「県・県教育委員会及び県立博物館・美術館等刊行の調査報告書等一覧」)。現在、県や市町村が積極的に保護している文化財の多くがこれらの調査成果に基づき価値づけられたものである。

文化財の基礎的な調査は、文化財の指定だけではなく未指定文化財の把握など市町村が文化財保存活用地域計画を策定する際にも貴重なデータを提供するものである。

イ 文化財の指定等

埼玉県文化財保護条例に基づき、県教育委員会が指定及び選定、選択できる文化財として有形文化財、無形文化財、民俗文化財、記念物、旧跡、選定保存技術の6つを規定し、文化財保護審議会の意見を参考に、本県にとって重要なものについて指定等を実施している。

ウ 国県指定文化財・埋蔵文化財の保護に対する財政的補助

国県指定文化財の保存修理、後継者の養成事業や記録の作成及び埋蔵文化財の調査や保存事業への補助を実施している。

エ 防火、防犯等文化財防災への取組

文化財の盗難や流出を防ぐために、3年ごとに国県指定文化財の所在確認調査を実施している。また、平成31年4月のノートルダム寺院の火災を受け、文化庁が行った国指定文化財の防災設備に関する緊急調査に合わせて、県指定文化財についても調査を実施した。その結果を踏まえ、適切な防災対策が講じられるよう専門的、技術的な助言など支援に努めている。

(2) 活用のための取組

ア 県立博物館・美術館等の取組

県立の博物館・美術館等では県民に文化財等に親しんでもらうために調査研究を踏まえ魅力的で質の高い特別展・企画展を開館以来継続して開催している（*1及び参考資料2「平成20年度～令和元年度の各館の特別展・企画展一覧」）。さらに、近年は漫画やゲームなどこれまでになかったメディアやアート等との連携による展示を開催している（*2）。

また、ラグビーワールドカップ2019TMや東京2020オリンピック・パラリンピック開催を本県の歴史文化の魅力発信の好機と捉え、県立博物館・美術館等の合同ホームページや外国人の利用促進のための案内パンフレットや館内案内表示の多言語化など、「おもてなし環境」の整備をするとともに、県の歴史文化の魅力を発信する企画展や体験事業を実施する。

さらに、学習課程に即した展示コースの設定や体験プログラムを準備して学校団体を受け入れているほか、学校への出前授業を行うなど学校教育との連携を進めている。図書館とも特別展、企画展に関連した図書の紹介をするなどの事業を行っている。

このほか博物館・美術館等では近隣施設や住民と連携し、地域の一員として魅力発信の事業を行い地域の振興にも一定の役割を担っている（*3）。

イ 県教育委員会事務局（文化資源課）の取組

文化資源課では文化遺産調査活用事業として県立の博物館と連携してこれまで調査対象としてこなかった分野の文化財について学術調査を始め、埼玉県歴史や伝統文化の再発見と発信を実施している（*4）。

また、県民に身近な文化財等への興味関心を持っていただくために、文化財等に関する分かりやすいテーマを設定し、県民参加により文化財等の情報収集と発信する事業を行っている。令和元年度はテーマを「101匹の埼玉狛犬」として実施し、SNSを活用し県民参加で身近な狛犬についての情報の収集、発信を行った。

さらに、東日本有数の規模を誇る埼玉古墳群の保存と活用を図るため、学術調査や復元整備を行う史跡埼玉古墳群保存活用事業を実施しているほか、県が所蔵してい

る埋蔵文化財の整理、保存と学校教育や生涯学習での活用を目的とした埋蔵文化財の保存活用事業を行っている。

学校教育との連携については、児童生徒が地域の文化財等をとおして学んだ成果を実社会に発信する取組を博物館・美術館等と学校教育が連携して平成 30 年度から実施している。

また、埼玉県のホームページに国県指定等文化財の概要や歴史的建造物のマップを掲載し、埋蔵文化財についても遺跡地図や情報を掲載している。そのほか、市町村が作成している文化財を紹介するホームページのリンクを一覧にまとめて作成している。

*1 近年の主な特別展・企画展

歴史と民俗の博物館：特別展「東国の地獄極楽」。

さきたま史跡の博物館：企画展「埼玉の古墳3 ー北足立・北埼玉・南埼玉・北葛飾ー」。

嵐山史跡の博物館：企画展「越山ー上杉謙信侵攻と関東の城ー」。

自然の博物館：特別展「ハチを知る」。

川の博物館：特別展「神になったオオカミ～秩父山地のオオカミとお犬様信仰～」。

近代美術館：企画展「インポッシブル・アーキテクチャー」。

*2 漫画やゲームなどと連携した展示会

歴史と民俗の博物館：平成 29 年度特別展「上杉家の名刀と三十五腰」。

ゲーム「刀剣乱舞-ONLINE-」と連携して開催。

近代美術館：平成 30 年度企画展「浦沢直樹展 描いて描いて描きまくる！埼玉の巻」。

さいたま文学館：平成 29 年度、30 年度特集展「文豪ストレイドッグス×さいたま文学館」。

漫画「文豪ストレイドッグス」と連携。

*3 県立博物館・美術館等における地域や近隣住民との連携の例

歴史と民俗の博物館：大宮公園駅周辺の 9 施設で構成される「ミュージアムヴィレッジ大宮公園」で、スタンプラリーや多言語のガイドブックの作成などを実施。

特別展、企画展開催時に近隣自治会向けの特別観覧会を開催。

さきたま史跡の博物館：古代蓮の里、行田市郷土博物館、足袋蔵などと連携した地域の魅力アップ事業の実施。

嵐山史跡の博物館：比企地区の市町村教育委員会と連携して巡回文化財展を実施。

自然の博物館：秩父鉄道と連携した「SL ミュージアムトレイン」の開催や長瀬町観光協会と連携した「紅葉ライトアップ」の実施。

近代美術館：県内の市立美術館と連携した Saitama Muse Forum により、美術、建築、音楽など多彩なアートプログラムを実施。

ミュージアムカレッジ：埼玉大学と歴史と民俗の博物館、近代美術館が隔年で共催し一般の方を対象に年 4 回を開催。

*4 調査テーマと実施機関

無形民俗文化財の調査「巡り・廻りの民俗行事」（歴史と民俗の博物館）

歴史遺産調査「新編武蔵風土記稿記載の歴史資料」（歴史と民俗の博物館）

自然遺産の調査「石灰岩地基礎調査」、「入間川流域自然調査」（自然の博物館）

第2章 本県文化財を取り巻く課題

1 文化への興味関心

本県の県立博物館・美術館等においては、年間利用者数の総数は徐々に増加しているものの、利用者は第3期埼玉県教育振興基本計画において目標としている100万人には届いていない(図3)。

また、利用者のうち、学生(高校生・大学生)の割合は他の世代と比べて低い傾向にある。次世代の文化財の担い手として期待される世代であるとともに、生涯にわたり博物館・美術館等で学び続ける基礎を養っていく世代の文化への興味関心は高くはない。

また、「文化に関する世論調査(平成30年度文化庁実施)」によると、文化や文化財に対する理解や関心は全国的に決して高い状態にあるわけではない(図4)。「文化芸術をこの1年鑑賞していない」率は46.1%であり、その理由を「興味がないから」とした率は35%を超えており、前回調査(平成28年度内閣府実施)の28%よりも増加している。

なお、本県の平成30年度県政世論調査においても「この1年間に、文化芸術活動のためにホール・劇場、映画館、美術館、博物館などに出かけたことのない割合」は44.5%と、文化庁の調査と同様の結果が示されている。

2 文化財の保存活用にかかる財政的な負担

指定等文化財の維持管理または修理には、多額の経費を要し、所有者が負担できない場合は、補助金が交付されているが、予算額は10年間の推移をみても、国・県ともにほぼ横ばいである(図5)。また、補助金は必要経費の一部であり、文化財によっては、所有者に多額の負担が生じている。

建造物や彫刻、絵画などの有形文化財や史跡、天然記念物などの記念物は、日常の維持管理を含

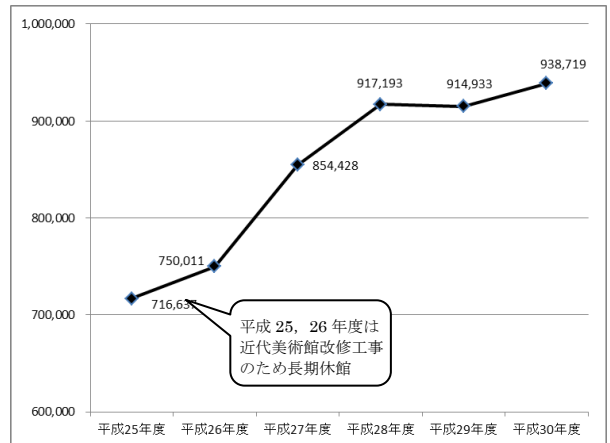


図3 県立博物館・美術館等の利用者数

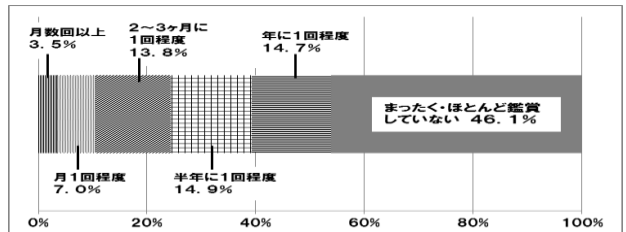


図4 文化芸術の鑑賞頻度

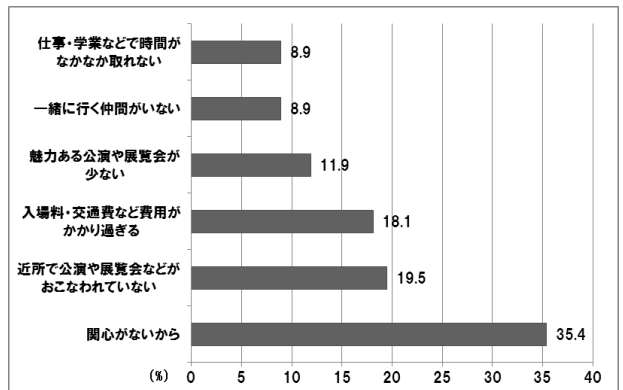


図5 観賞しなかった理由

(図4.5は文化庁「文化に関する世論調査」をもとに作成)

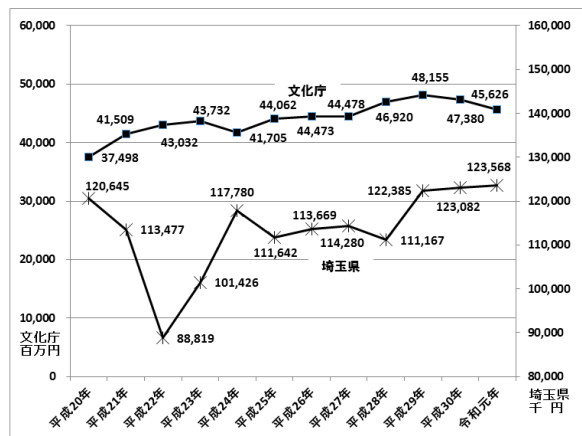


図6 文化庁と埼玉県文化財関係予算の推移
(文化庁ホームページ「文化財関係予算」等参照)

め、保存のための修理や活用のための費用が必要となる。こうした中には所有者の高齢化等により文化財の維持管理さえも十分にできなくなるケースや、所有者が必要な資金をねん出できないため修理や整備などが遅滞するなどの課題がある。日常の維持管理や保存活用に掛かる費用の負担感が強く、十分な保存活用に困難なものもある。

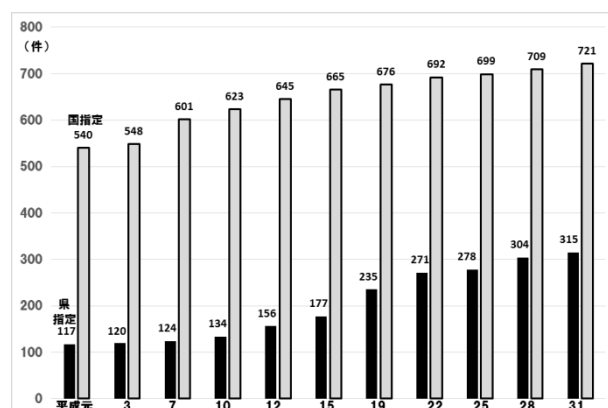


図7 国と県の指定等文化財件数の推移

3 文化財の保存活用を担う人材の確保

本県は平成 27 年には 4 人に 1 人が高齢者となっており、少子化も進行している。少子高齢化による担い手不足等により、例えば有形民俗文化財を中心に、かつて地域社会に広く共有されていた知識や製作技術、使用技術の伝承が局地化、断片化、希薄化している。

また、共同体を基盤として集団的に伝承されてきた無形民俗文化財についても、伝承基盤が変容するなどして、地域に受け継がれてきた文化財が次第に失われつつある。特に県南部地域では、県内外からの流入人口が増加し、都市化に伴う生業形態の変化や機械化の進展に加え、新旧住民の混住化等による地域社会の変容によりその傾向は顕著である。

無形文化財（工芸技術）については、新素材・新技術の登場により、伝統ある素材・技術によって作られる製品の需要が減少することから、後継者の育成が難しくなっているものもある。

このようなことから、文化財を継承していくためには後継者の育成は急務である。

また、県内には県立、市町村立、私立を含め博物館・美術館等が 80 以上あるが、文化財散逸の危機を回避する機能を持っており、学芸員などの専門職員が地域の文化財に対する知識や資料取扱いに関する専門的な知見を有している。

文化財の保存活用に関する考え方や手法や技術が変化していく中で、学芸員や専門知識を持つ職員の知識や技術の向上、文化財に携わる職員の文化財にかかる知識の習得は欠かすことができない。しかし、現状では、学芸員や文化財行政に携わるそれぞれの職員の自発的な努力に負うところが多く、自治体による専門職員の資質向上を図る積極的な取組が重要となる。

文化財保存科学の分野や歴史的建造物などについては県内に専門家が少ないことも課題である。

文化財の保存修理、復元整備は、指定時の姿を基本として現在の技術の範囲で可能な限り現状を維持、継承していくことが基本的な考え方となる。従って、文化財の修理や整備に当たっては、工法や技法、素材などについて専門的な知見を踏まえて実施しなければならないが、複数の専門家から意見を聴くことが必要であるが、全ての修理や整備事業で実施できているわけではない。

さらにこれらの発注に当たっては、専門家の意見に基づく適切な仕様を作成するととも

に、文化財の保護という事業の特殊性を踏まえ、施工実績や技術を持つ職人数などを精査するなどにより、適切な業者を選定しなければならない。

4 自然災害等の多発

わが国の文化財は脆弱な素材で構成されているものが多く、自然災害に見舞われると多大な被害が生じやすい。また、災害は、時に地域社会そのものにも大きな影響を与えることから有形の文化財だけではなく無形の文化財も大きな被害を受けてしまう。

多くの河川が流れ、山地や丘陵地からなる複雑な地形が特徴である本県は、大規模な水害や土砂災害が発生する可能性がある。また、南関東地域におけるM7クラスの地震も今後30年間に70%の確率で発生すると予測されている（文部科学省地震調査研究推進本部地震調査会(2004)「相模トラフ沿いの地震活動の長期評価について」）。

平成23年3月に発生した東日本大震災では、東北地方から関東地方の太平洋岸の地域を中心に、400件以上の国指定等の文化財が被害を受けた。大規模な災害は住民離散等による地域コミュニティの危機をもたらし、それは、そのまま、これを伝承基盤とする民俗芸能等、無形民俗文化財の存続を脅かすものとなる。

本県においても重要文化財である川越市の喜多院客殿や深谷市の日本煉瓦製造株式会社旧煉瓦製造施設などの歴史的建造物に亀裂が生じたほか、仏像や考古資料といった美術工芸品の転倒、落下による破損など多くの文化財が損傷を受け、その件数は、国、県、市町村指定等合わせて280件以上に達した。さらに、令和元年の台風19号による大雨では県内の広範囲わたり文化財が被災した。こうした大規模な自然災害の発生のほか、近年、県内で竜巻や落雷などによる局地的な自然災害も発生している。

このほか、平成31年4月に発生したノートルダム大聖堂や平成30年9月のブラジル国立博物館の火災は、世界的に貴重な文化財が一夜にして滅失してしまうという火災の恐ろしさを改めて認識させた。ノートルダム大聖堂の火災発生後に、文化庁および県が実施した国・県指定有形文化財の防火対策についての緊急調査では、県内の重要文化財、県指定文化財について消防設備の不備が報告されている。

文化庁が作成した「国宝・重要文化財（建造物）の防火対策ガイドライン」「国宝・重要文化財（美術工芸品）を保管する博物館等の防火対策ガイドライン」では、地方公共団体や文化財所有者、博物館・美術館等に対し、改めて防火対策についての基本的な考えを示している。

国・県指定建造物の 防火対策緊急状況調査の結果

(1) 国宝・重要文化財	
消防法上防火設備等課題有	6件
防災設備点検指摘有	2件
新設・拡充等必要有	1件
(2) 県指定文化財	
防火設備等に課題有	12件
防災設備点検指摘有	4件

文化庁調査
平成31年4月22日付け31文化庁第159号「文化財の防火対策等について（通知）別添2「緊急状況調査等について」
埼玉県調査
平成31年4月25日付け教文資第198号「国・県指定有形文化財（建造物）の防火対策緊急状況調査について（依頼）」
などをもとに作成

5 市町村文化財行政や地域社会への支援

市町村の文化財行政は、組織、人数や専門職の配置、地域の文化財の状況、文化財の保存活用のノウハウの蓄積などに大きな違いがあり、祭りや街並みを観光資源と考え経済的な効果を上げている地域もある。本県でも産業や観光、地域振興などにおける文化財の活用は、多くの可能性を秘めている分野である。

県と市町村の担当者が、必要に応じ課題を共有しながら、協力し合って文化財の保存活用にかかる業務を遂行しているほか、埼玉縣市町村文化財保護行政主管課長連絡協議会、文化財保護行政担当者会議、文化財保存活用地域計画研修会などを実施している。文化財の保存活用の在り方が変わる中で、すべての市町村が積極的に文化財を保存活用するためには、効果的な取組を情報共有し、意見交換を行う場が一層必要となる。

また、これからは、地域の方々が文化財の保存活用に積極的に参画し、行政や専門家などと連携しながら観光や地域活性化などに取り組む中で、文化財の保存と活用の好循環が創出されるよう支援方法を検討していくことも大切である。

6 アニメやゲームとのコラボレーション、SNS活用などニーズの変化

歴史と民俗の博物館がゲーム「刀剣乱舞-ONLINE-」とコラボレーションした「上杉家の名刀と三十五腰」、県立近代美術館での「浦沢直樹展」や県立さいたま文学館による「文豪ストレイドッグス」といった漫画とのコラボレーションなど、ゲームや漫画等と連携した特別展等が多くの入館者や、今までとは異なる年齢層を集めている。

文化資源課で令和元年度の新規事業として実施したインスタグラムに身近な狛犬をアップする「101匹の埼玉狛犬」も、約2か月で700件を超える狛犬の写真を集めることができた。このように、SNSによる情報発信・共有を通して楽しむなど、文化財へのアプローチの方法は広がりを見せている。

さらに文化財へのかかわり方が多様化する中で、文化財の魅力を引きだし、関心・理解を促進する方法として、VR(仮想現実)やAR(拡張現実)といった先端技術の活用など、従来の手法から大きな変化のタイミングが訪れている。

第3章 今後の文化財の保存活用に関する考え方

1 基本的な文化財の保存活用の在り方について

文化財保護法第1条では「この法律は、文化財を保存し、且つその活用を図り、もって国民の文化的向上に資するとともに、世界文化の進歩に貢献することを目的とする」と謳われている。本県においても、法に則り、これまで文化財の保存と活用に取り組んできたところである。

現在、文化財等の持つ力に大きな期待が寄せられている中、経済や地域活性化など文化財の活用を拙速に求めることが、適切な保存に悪影響を及ぼすのではないかという懸念が生じている。

多くの文化財が、長い歴史の中で、困難な状況をくぐりぬけ今ここに存在しているのは、先人たちの絶え間ない努力の成果であり、これらは一度失ってしまえば二度と手にいれることのできないものである。今の世代が、先人から受け継いだ貴重な文化財を滅失・散逸させぬよう、私たちには、文化財を確実に未来の世代に受け継いでいく責務がある。

だからこそ、短期的視野で経済性など一部の価値のみを評価の基準として文化財の価値を測ってはならない。

日本の文化財の多くは木や紙などを素材としており、脆弱で取扱いに特段の注意を払う必要があることなどから、活用には慎重さが求められる傾向がある。また一方で、一部の建造物のように、人が住み活用することにより、維持が図られ価値が高まる文化財もある。

こうしたことから、保存活用に当たっては専門的知見を踏まえ、それぞれの文化財に最も適した保存方法を講じるとともに、活用に当たっては文化財に悪影響を与えないように努めなければならない。

今後の文化財の活用は、今までの場所や時間等を限定した公開や専門家による研究などから、多様なニーズに応じた学びや体験、まちづくりや観光振興など、文化財等の持つ力を今までと違った観点から価値付けすることで活用の範囲を大きく広げていくことが求められている。

従来から認められている文化財の学術的・芸術的・歴史的な価値に加え、地域振興などの社会的な価値、観光などの経済的な価値なども積極的に認め、高めていくことが、文化財の保存について地域社会の理解と協力を得ることにつながっていく。

また、文化財を適切に継承していくためには、文化財の保存と活用が互いに効果を及ぼしあえるよう、所有者や地域、行政、専門家等の関係者が、それぞれの立場から多面的多角的に文化財の価値を把握、維持し、高め、活用することに協力して取り組むことが必要であり、それらのバランスを適切に保つことができるように丁寧な調整に努めていくことが重要となる。

2 博物館・美術館等について

文化財の保存活用に関する考えが変わる中で、小規模な郷土資料館や文化財展示室など

を含めたすべての博物館・美術館等の求められる役割について、原点に立ち返り見直さなくてはならない。

博物館・美術館等は、散逸の恐れがある文化財の保存、地域の文化財のデータバンクなどとしての役割に加えて、地域社会の発展と県民生活の維持向上に資するための役割が期待されている。

そのためには、優秀な人材の確保が必要であり、学芸員のさらなる資質の向上や将来を見据えた継続的な採用に努める必要がある。各館それぞれが、これまで博物館・美術館等に関心のない方々も含め多様な層に文化財の魅力をアピールするため、展示やガイダンス機能の充実、広報、地域との連携などに取り組み、研鑽に努めなくてはならない。

特に展覧会と関連事業については人々と文化財の接点となる大切な役割を担っているものであり、来館者の目線に立った工夫や取組を常に心がけなくてはならない。

展覧会のテーマは適切か、展覧会に応じた深め方や広げ方ができているか、興味をそそるチラシやリーフレットが作成できているかなどについて、丁寧に検討していくことも重要である。

その上で、展覧会が、来館者一人一人の文化財理解にしっかりと貢献できたか、来館者が心より楽しめたか、もう一度来館してみたいと思ってもらえたか、博物館・美術館等自身が評価し、分析し、改善を繰り返すといった弛まぬ努力をしていくことが必要である。

近年、多くの博物館・美術館等で写真撮影が可能となってきている。また、来日外国人や乳幼児など子供連れ、障害のある方などが躊躇することなく来館、観覧できる環境整備も求められている。来館者の目線に立ってニーズを把握し的確な対応に努めていきたい。

また、今までの展示方法に加え、VRやARなどの先端技術を使った多様な体験や学び、アニメやゲームとのコラボレーション、SNSを活用した情報発信や拡散など、時代のトレンドも必要に応じ取り入れながら、さらに質の高い展示等に挑戦していく。

すべての人をやさしく迎え、すべての人が楽しめる博物館・美術館等を目指すことで、来館者を増やし博物館・美術館等の活性化や文化財の保存活用に繋げていく。

3 地域における文化財等について

国や県による文化財指定等の有無を問わず、地域に存在する文化財等について、多様な価値を見出して、積極的に活用していくことを目的とした活動が各地で進められている。

少子高齢化や地方における過疎化が進む中、地域の連帯感が希薄化し地域にある文化財の継承がますます困難になってきている。一方、地域社会や経済の活性化に活用できる資源を発掘したいというニーズもあり、これまで気に留めてこなかった未指定等の地域の文化財等にも注目が集まり始めている。

それぞれの地域に、昔から当たり前のようにある「モノ」や「コト」を掘り起こし、価値を発見、再評価して文化資源として位置付け、地域振興や観光振興などに活用していくことが、地域の文化財等の保存、地域文化の継承に資することになる。

さらに地域の文化財等を守り、祭礼行事や慣習など地域文化を作り、守ってきた人たち

や次代を担う若い世代により、文化財等の価値が改めて認識され、活用されることで、地域振興や地域に関わる人々の増加など地域の活性化に資することができれば、地域の文化財等を保存する取組に新たな展開をもたらすことになる。

また小学校、中学校の授業等において、地域の文化財等の価値や活用について学ぶことは将来の文化財等の担い手、後継者の育成にもつながる。

何世代もの間、地域で受け継いだ文化財等を地域の未来の世代に受け継いでいくために、文化財等を守り活用していこうという地域の方々の思いは不可欠である。

*参考「最近の国内外のうごき」

○第 25 回国際博物館会議 ICOM (The International Council Of Museums)

令和元年 9 月、京都において第 25 回国際博物館会議 ICOM (The International Council Of Museums) が「Museums as Cultural Hubs ; The Future of Tradition(文化をつなぐミュージアム ―伝統を未来へ―)」をテーマに開かれた。地球規模の気候変動や貧困、紛争、自然災害、環境問題などを背景に、国際的に政治・経済・社会が大きく変容を遂げている中で、平和で持続可能なより良い未来を構築するために、博物館がどのように社会に貢献できるのか、何をなすべきかが議論された。多くの議論の中で、ICOM と経済協力開発機構 OECD (The Organization for Economic Co-operation and Development) が連携し、自治体や地域コミュニティ、博物館・美術館等が文化の力を動員し持続可能な未来を創造するための“Culture and local development maximising the impact” を発表した。博物館組織である ICOM と経済成長等への貢献を目的とする OECD との連携は、世界的なレベルでも、文化財、文化、博物館・美術館等の果たす役割の変化を示していると考えられる。

○文化経済戦略

平成 29 年内閣官房及び文化庁による「文化経済戦略」では、国・地方自治体・企業・個人が文化への戦略的投資を拡大し文化を起点に産業等他分野と連携し新たな価値を創出し、文化に再投資され持続的な発展に繋がる好循環を構築することを打ち出した。また同年「明日の日本を支える観光ビジョン構想会議」が「明日の日本を支える観光ビジョンー世界が訪れたい日本へ」の中で、今後の日本の成長と地方創生の柱として「観光」を掲げ、文化財の保存優先から観光客目線での「理解促進」、「活用」を行うことを答申した。

○国際的な大規模スポーツイベント

令和元年の「ラグビーワールドカップ 2019」、令和 2 年の「東京 2020 オリンピック・パラリンピック」の開催は、本県の歴史や伝統文化を国内外へアピールする好機であるとともに、取組を通じた経験や実績の蓄積、環境整備の充実が今後の文化財活用の在り方としてレガシーの一つとなる

○文化芸術基本法

平成 29 年に文化芸術振興基本法が法律名を文化芸術法に改められるとともに、文化芸術の振興にとどまらず、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関連分野における施策を法律の範囲に取り込むことや、文化芸術により生み出される様々な価値を文化芸術の継承、発展及び創造に活用することを趣旨として改正された。

なお、法の第 13 条文化財の保存活用では文化財並びにその保存技術の活用を図るため、修復、防災対策、公開等への支援やその他の必要な措置を講ずることが定められている。また、第 26 条で美術館、博物館、図書館等の充実が規定されている。

第4章 文化財の保存活用の目指すべき方向性と取組

1 文化財に関する理解を促し興味関心を高める

地域の文化財を適切に保存活用し、次世代へ継承していくためには、県民一人一人や地域の主体的な活動を促していくことが重要となる。

その第一歩として、県民に地域の歴史や文化について正しく知っていただくとともに、地域の文化財に触れる機会を充実させることにより理解を促す取組を行う。

(1) 文化財の魅力の周知

①未指定を含む文化財の把握、興味関心の向上

ア 新規事業「埼玉遺産」の実施

・県民に地域の歴史文化への興味や関心を高めてもらい、郷土埼玉への愛着を深めてもらうため、身近な文化財等に目を向けてもらう取組を県民の参加を得ながら実施。

イ 文化財の掘り起こしと価値の再評価

・指定、未指定を問わず身近な地域の文化財の掘り起こしやこれまで知られている文化財を再評価し、博物館・美術館等で情報を集積し、活用するための文化財の調査を推進。
・県指定文化財に関する情報提供を通じた未指定文化財を含む文化財全般への理解・関心の醸成。

ウ 地域主体で取り組む文化財の保存活用への支援

・地域に所在する文化財について、地域自らが保存活用の在り方や取組を検討できるよう、地域の実情に即した支援を実施。

②文化財の多角的な情報発信

ア 多くの人々が文化財の情報に触れる機会の創出

・文化財を紹介する印刷物だけではなく、ホームページやSNSを用い、いつでも、どこでも、誰でもが参照可能な情報の提供。

イ 県内無形文化財の魅力の周知

・これまであまり周知されてこなかった工芸技術などの無形文化財のわざや製品、保持者や保持団体の活動について、イベントや博物館・美術館等での取組などにより、積極的に情報を発信。

③県立博物館・美術館等の活動のさらなる充実

ア 質の高い調査研究等の実施

・各館のミッションに沿った調査研究の実施と成果の発表。
・充実したコレクション形成とデータベースの公開。

イ 常設展の充実や魅力ある特別展、企画展の実施

・見るだけでなく体験を通じた学びの提供、体感できる展示などの実施。

- ・多様なニーズに対応した解説や展示の実施。
- ・最新の調査研究成果に基づく展覧会の開催。

ウ 教育普及事業の充実

- ・県民のニーズに合った体験、講座などの教育普及事業の実践。
- ・地域と連携した文化財等の活用事業の実施。
- ・学校と連携した地域の文化財等の理解促進の実施。
- ・学校の社会科見学等の受入、出張展示・講座の実施。

エ わかりやすい情報発信の充実

- ・来館者に対して実物資料、レプリカ、ジオラマ、写真、動画、文字資料やVR、ARといった先端技術など博物館・美術館等の施設の中で多様なメディアを重層的に組み合わせた発信。
- ・ホームページやSNSなどネットメディアを通して県立博物館・美術館等の事業や収蔵資料、社会的に話題となっている歴史文化に係る出来事について、時機をとらえ情報を発信。

オ すべての来館者の快適な利用を促進

- ・県立博物館・美術館等の施設内のサインや展示室内の解説やホームページなどの多言語化推進と効果の検証。
- ・訪日外国人に対応するため、県立博物館・美術館等8施設での企画展や体験事業について県観光課と連携して情報発信を行うとともに、効果的な手法を検討。
- ・県立博物館・美術館等において、施設や展示解説におけるバリアフリー化を推進。
- ・乳幼児等子供を連れた来館者が気兼ねなく観覧できる時間帯の設定。

④関係者との連携

ア 観光や地域振興分野などと連携した事業の実施

- ・観光や地域振興、文化関係の行政組織や団体や専門家が持つノウハウやツールを活用した情報発信や事業の展開。

イ 県と市町村との連携

- ・県と市町村の文化財保護、観光振興、地域振興、文化振興部局が連携したきめ細かい情報発信や地域情報の周知、文化財の理解促進に関する発信。
- ・複数の市町村に共通するテーマやストーリーをもとに相互連携し、広域的に文化財の魅力を発信する取組を促進。

ウ 行政と県内公立、私立博物館・美術館等の連携

- ・各自治体の文化財行政と、県内の公立私立の博物館・美術館等が加盟している埼玉県博物館連絡協議会が連携し、所有者の協力を得て文化財への理解促進事業の充実を図るとともに、先進的な手法の研究や研修などを実施。

エ 学校教育との連携

- ・文化財等の保存活用を将来担っていく子供たちが身近な文化財等に関心をもち、親しむことができるように、学校と博物館・美術館等の連携を推進。

2 文化財を適切に保存する

文化財保護の重要な柱である保存を適切に進めるためには、文化財を健全な状態に保ち、指定時の価値を将来にわたって維持することを基本に、計画的な保存修理や復元整備などの措置を行う所有者等へ支援が必要となる場合がある。

また、自然災害や火災、盗難などは文化財の毀損や滅失につながるものである。こうした被害から文化財を守るための措置を講ずるとともに、被災した場合の適切な応急処置とできる限り速やかな復旧を行うことができるように、日ごろから関係者間の連携体制を整えておくべきである。

また、保存処理や修理に関する専門的知識を持つ人材の育成や専門機関との連携も必要である。

(1) 適切な文化財の指定

①適切な文化財指定等の実施

ア 県による文化財の指定

- ・学術的・歴史的等価値のある文化財については県が適切に指定等を実施。
- ・県が行う文化財指定等の基本的な考え方や手法の整理、周知。

(2) 老朽化など指定文化財の修理・整備に対する支援

①補助事業の効果的運用

ア 補助事業内容の精査

- ・国県指定等文化財の保存活用を適切に進めるため、補助事業内容を精査し、予算を効果的に運用。

イ 保存修理、復元整備事業の適切な実施

- ・保存修理、復元整備に当たり、工法や技法、素材について専門家から指導を受けることができる仕組みを整備。
- ・文化財の保存修理や復元整備の適切な施工ができる技術者や業者の把握と育成。

ウ 地域での文化財の保存活用への支援

- ・少子高齢化により維持が難しくなる文化財の増加に対応するための地域で行う文化財の保存活動への支援を検討。

エ 後継者育成のための支援

- ・無形文化財の後継者が安定的に携わっていくための環境整備や、無形民俗文化財の伝承基盤整備のための補助事業の充実。

②県所有指定文化財の適正な保存

ア 計画に基づいた適正な保存・整備

- ・埼玉古墳群については、平成 30 年度に作成した保存活用計画をもとに、令和 3 年度に第 2 期保存整備基本計画を策定し計画的な整備を実施。
- ・古秩父湾堆積層及び海棲哺乳類化石群については、令和元年度に策定した保存活用計画に基づき他の所有者と連携して計画的な保存活用を実施。
- ・比企城館跡群菅谷館跡については、保存活用計画を策定し、整備計画を策定。
- ・博物館・美術館等(文化財収蔵施設を含む)の所蔵資料については、良好な保存環境維持を図る。

③県の補助対象外となる文化財等への支援

ア 新たな資金確保の手法の検討

- ・クラウドファンディング、ふるさと納税制度や民間の助成制度を利用した文化財等の保存活用事業の事例の情報収集と市町村、所有者への紹介。

(3) 地域の文化財の後継者の育成

①後継者育成への支援

ア 補助制度の拡充(再掲)

- ・無形文化財の後継者が安定的に携わっていくための環境整備や、無形民俗文化財の伝承基盤整備のための補助事業の充実。

イ 後継者養成への助言

- ・将来の技術伝承や普及啓発に活用することを目的とする文化財の正確な記録作成の実施や、伝承基盤強化のための地域内外からの支援事例や方法などの助言を実施。

ウ 所有者への助言

- ・文化財の保存活用に資する情報を時宜を得て所有者に提供できるよう、市町村の文化財担当課と連携し連絡体制を強化。

(4) 知識や技術の継承

①文化財専門職員の資質向上

ア 国や大学、県立博物館・美術館等との連携

- ・文化財の適切な保存活用に欠かせない県や市町村の学芸員や文化財専門職員に対して、資質向上のために国や大学、県立博物館・美術館施設と連携した研修を実施。

イ 文化財関係団体との連携

- ・埼玉県博物館連絡協議会、埼玉県文化財保護協会や埼玉県地域史料保存活用連絡協議会と連携を強化し、専門的な知識や技術の習得のための事業をより効果的に実施。

②保存処理や修理などに関する技術の継承と研究を行う

ア 国や大学等との連携強化

・建造物などの文化財や、文化財保存科学など、県内に専門家が少ない分野について、適切な保存活用を図るために国や大学、研究機関との連携を強化し、人材の把握と活用に努めるとともに、必要に応じて助言や支援を受けられる体制を構築。

(5) 文化財の防災・防犯の推進

①未指定文化財を含めた災害対策を検討する

ア 「国・県指定文化財に対する事故・事件・災害等への対応マニュアル」の見直し
・災害発生現場における文化財レスキュー活動では指定、未指定に関わらず作業を進めることとなることから、未指定文化財を含めた災害対応について検討をおこない、現在の「国・県指定文化財に対する事故・事件・災害等への対応マニュアル」を見直す。

②県立博物館・美術館等の防災・防犯体制の充実

ア 適切な施設改修の実施

・施設の老朽化による耐火、耐震等の防災機能の低下を未然に防ぐための施設改修の実施。

イ 日常的な管理の徹底

・防災設備の日常的な点検や定期的な防災訓練の実施。

③国・県指定文化財の災害対策の充実

ア 補助事業の充実

・現在行っている防火、災害対策への補助事業について、国の補助事業の活用や県による補助制度の実施。

④国・県指定文化財(建造物)の耐震対策の充実

ア 耐震予備診断の実施促進

・耐震診断や耐震工事のための基礎的情報収集である耐震予備診断について、県と建築士会などが連携し、市町村や文化財の所有者に積極的な周知を実施。

イ 修理事業の機会を捉えた耐震診断、耐震工事の促進

・防火対策の重要性や制度について、県と市町村が連携して文化財の所有者への研修や説明会を開催。

・建造物の耐震化について、県と市町村が連携して文化財の所有者への研修や説明会を開催。

⑤文化財所有者へ防災・防犯等の防災対策を周知徹底し理解を促進

ア 所有者への説明機会の充実

・防災、防犯について、県と市町村が連携して文化財の所有者への研修や説明会を開催。

⑥防犯対策への支援

ア 所有者、管理者への支援

・防犯設備設置への補助を引き続き行うとともに、防犯上十分な保管環境にない

文化財について、博物館・美術館等への寄託を調整。

⑦関係団体との連携

ア 県と市町村文化財行政担当との連携強化

- ・災害発生時の被災文化財等へのレスキュー活動は正確な情報に基づく迅速な対応が求められることから、県と市町村の連携を強化。
- ・災害発生に備え市町村が把握した未指定文化財の情報を県と共有できる仕組みの構築。

イ 文化財関係団体との連携強化

- ・埼玉県文化財保護協会が作成を進めている文化財防災マップについて、ハザードマップの充実、新指定文化財などのデータが適切に更新できるよう、県と市町村関係者間での調整を図り最新の状態を維持。
- ・埼玉県文化財保護協会と協力して、文化財防災マップを活用した研修会を実施。
- ・広域な災害発生に対応するため、全県規模の文化財関係団体である埼玉県博物館連絡協議会、埼玉県文化財保護協会、埼玉県地域史料保存活用連絡協議会の3団体と県との連携を強化。
- ・東京文化財研究所など国の機関からの協力が得られるように県外の機関等を含めた文化財防災のためのネットワークを構築。

ウ 埼玉県建築士会との連携

- ・本県において専門的人材が不足している歴史的建造物について、耐震予備診断やレスキュー活動を迅速に進めるためにヘリテイジマネージャーなど埼玉県建築士会との連携を促進。

(6) 指定文化財の紛失等の防止の徹底

①紛失等の防止

ア 所在場所確認調査時に所有者への啓発活動を実施

- ・調査時に指定文化財の管理や諸手続きについて説明。
- ・調査の重要性を所有者に理解していただくために啓発活動や文化財行政に携わる職員への研修を実施。

イ 所在場所確認調査の実施

- ・必要な手続きを経ないで所有者や所在場所の移動が行われた文化財の有無の把握や、紛失、盗難から文化財を守るために3年に1回所在場所の確認調査を実施。

ウ 適切な所在場所確認方法の研究

- ・個人宅内での保管や宗教上の理由によって非公開とされている文化財について適切な確認方法を検討。

(7) 文化財保存活用地域計画、個別文化財の保存活用計画作成支援

①市町村との情報共有

ア 先進事例の収集、情報提供

・文化財保存活用地域計画や個別の文化財の保存活用計画策定についての先進事例の収集と情報提供。

イ 県による調査の情報提供

・県がこれまで行ってきた文化財等に関する過去の調査について市町村に情報提供を実施し、市町村による歴史文化の掘り起しや、現状把握のための調査を支援。

ウ 研修会の継続的な実施

・情報提供の場として市町村の担当者を対象とした研修会の充実と継続的な実施。

②協議会等への支援

ア 調査したい事項の専門家との橋わたし

・市町村が計画策定に当たり設置する協議会の委員選定に当たって専門家や専門機関についての情報提供。

・協議会に県の専門職員が参加。

イ 文化財の保存修理に関する専門家や専門機関の紹介

・文化財の保存修理に関する専門的助言を適切に行えるように専門家、専門的機関を紹介するとともに、保存修理の方法などを検討する会議の開催を支援。

③市町村への支援

ア 方法提供と市町村間の支援

・文化財保存活用地域計画や個別文化財の保存活用計画の策定に困難が予想される市町村については、県が他市町村に係る情報提供や市町村間の連携についての調整を実施。

イ 県の学芸員による助言と委員としての参加

・専門職員が不在であったり、個別の保存活用計画を策定すべき文化財についての専門知識が不足している場合、市町村からの要望に応じて専門的な支援を実施。

3 文化財等を活用する

文化財の持続的な保存活用を進めていくには、地域の方々に文化財等に親しんでいただく取組が不可欠である。そのために、文化財行政や博物館・美術館等においては、多くの方々に文化財の価値や重要性を理解していただく取組を行うとともに、文化財に触れる機会を増やしていく必要がある。東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会など大規模イベントを利用した取組やそこで得たノウハウを生かした文化事業の実施を検討する。

また、地域での計画的な活用を促すために、市町村が作成する文化財保存活用地域計画や所有者による個別文化財の保存活用計画策定への支援を行うとともに、文化財等を活用した魅力ある地域づくりを行うため、地域振興や観光振興機関との必要な連携を図る。

(1) 文化財を確実に継承する活用の促進

①博物館・美術館等において地域連携事業を推進

ア 県立博物館・美術館等のミッションに基づく活用事業の充実

・各館のミッションに基づき収集した資料の有効活用を図るために実施している資料整理事業や史跡整備事業の充実。

イ 県立博物館・美術館等における地域連携事業の実施

・県立博物館・美術館等の立地している地域の市町村や様々な団体と連携した地域の歴史文化の情報発信や、館や周辺施設を活用した地域住民参加型事業の実施。

ウ 県立博物館・美術館等を核とした地域の文化資源を活用した地域活性化事業の実施

・県立博物館・美術館等が周辺自治体や関係団体と連携し、ユニークベニューや新しい技術を利用した文化財の活用事業を実施。

エ 県所有指定文化財の積極的活用

・埼玉古墳群や比企城館跡群菅谷館跡、古秩父湾堆積層及び海棲哺乳類化石群など地域との結びつきが強い文化財については保存活用計画に基づき、地元市町村と連携し地域イベントでの活用や現地での理解促進事業を実施。

・県立博物館・美術館等(文化財収蔵施設を含む)で所蔵している県指定文化財については、保存活用環境に十分配慮をしたうえで、関係市町村や関係団体に貸出を含め活用を促進。

オ 文化財等の活用事例の周知

・県は、文化財等を活用した地域連携のノウハウを市町村に提供し、市町村における文化財等の活用の手法として普及を促進。

②東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーの活用

ア 県立博物館・美術館等におけるおもてなし環境のさらなる整備・充実

・案内板や展示解説、ホームページなど事業広報の多言語化について、効果の検証を行いさらに利用しやすく集客に結びつくような環境整備を実施。

・県立博物館・美術館等が連携して実施した広報や企画展の開催で培ったノウハウをレガシーとして、多くの施設の連携による事業を継続して実施。

③県指定文化財を積極的に活用

ア 指定文化財の公開の促進

・県指定文化財の公開を促進するため歴史的建造物、史跡や名勝など移動が困難である文化財を対象とする見学会等の開催。

・県立博物館・美術館等による公開を促進。

イ 無形文化財の活用の促進(再掲)

・無形文化財による製品や保持者や保持団体の活動について、県主催のイベントや県立博物館・美術館での展示などを活用し、積極的な情報発信を実施。

ウ 市町村による県指定文化財の活用促進

・所有者や市町村が県指定文化財の活用を図るために必要となる解説板の設置への財政的支援や県による関連する文化財の調査情報の提供。

エ 学校教育による県指定文化財の活用促進

- ・学校教育で県指定文化財を活用できるように、文化財を紹介した印刷物を学校や市町村教育委員会に定期的に配布。

④文化財公開のバリアフリー化

ア 県による所有者へバリアフリー化に対する必要性の理解促進

- ・文化財の公開に係るバリアフリー化の事例を収集し、所有者や市町村への情報提供。
- ・国県指定文化財における修理・整備事業の一環として実施するバリアフリー化への補助の実施。

⑤優良事例を応用できる仕組みづくり

ア 県による優良事例の全国的な収集、情報提供

- ・文化財等を活用した地域活性化の成功事例を収集し、研修やホームページなどで紹介する。

イ 自治体職員の研修

- ・文化財等の保存活用と地域活性化について、文化財関係者だけではなく、地域振興、観光振興部局の職員も対象とした研修を実施。

⑥建築基準法の適用除外を検討する市町村への対応

ア 制度の周知

- ・県や市町村指定文化財及び国の登録文化財の建造物の保存活用にあたって修理や改築を行う際に、建物の安全性を確保しつつ建築基準法の適用除外を受ける場合の手続きについて県及び市町村の関係部局と連携し情報を発信。

(2) 文化財保存活用地域計画、個別文化財の保存活用計画作成支援(再掲)

①先進事例の収集と情報提供

ア 先進事例の収集、情報提供

- ・文化財保存活用地域計画や個別の文化財の保存活用計画策定についての先進事例の収集と情報提供。

イ 県による調査の情報提供

- ・県がこれまで行ってきた文化財等に関する過去の調査について市町村に情報提供を実施し、市町村による歴史文化の掘り起こしや、現状把握のための調査を支援。

ウ 研修会の継続的な実施

- ・情報提供の場として市町村の担当者を対象とした研修会の充実と継続的な実施。

②協議会等への支援

ア 調査したい事項の専門家との橋わたし

- ・市町村が計画策定に当たり設置する協議会の委員選定にあたって専門家や専門機関についての情報提供。

- ・協議会に県の専門職員がオブザーバーなどとして参加。

イ 文化財等の保存修理に関する専門家や専門機関の紹介

- ・文化財等の保存修理に関する専門的助言を適切に行えるように専門家、専門的機関を紹介するとともに、保存修理の方法などを検討する会議の開催を支援。

③市町村への支援

ア 方法提供と市町村間の支援

- ・文化財保存活用地域計画や個別文化財の保存活用計画の策定に困難が予想される市町村については、県が他市町村に係る情報提供や市町村間の連携についての調整を実施。

イ 県の学芸員による助言と委員としての参加

- ・専門職員が不在であったり、個別の保存活用計画を策定すべき文化財についての専門知識が不足している場合、市町村からの要望に応じて専門的な支援を実施。

(3) 観光やまちづくり、地域産業と連携した取組の充実

①観光や地域振興機関と連携した事業の展開

ア 観光振興、地域振興機関と連携した文化財等の理解促進事業の実施

- ・市町村が行う文化財等の活用事業が部局横断的な取組となるように県、市町村の観光振興、地域振興、文化振興部局、関係団体等と連携した文化財等の情報発信や理解促進事業を推進。

イ 地域の産業と連携した商品開発

- ・文化財等の幅広い周知と地域振興や産業振興に結び付くような商品開発を地域の企業と連携して実施。

第5章 文化財等の保存活用の推進のための行政組織等

本県では、平成31年度を初年度とする第3期の埼玉県教育振興基本計画を策定した。この計画では、変化の激しい社会において、人生100年時代をより豊かに生きるためには、自らの可能性を最大限に伸ばし、学びの成果を社会の様々な場面で発揮し、一人ひとりが生涯輝き続ける社会の実現が必要である、としている。

博物館・美術館等は文化財等を通して、県民一人ひとりが豊かな人生を送ることができるよう身近に文化や芸術に親しむ機会を提供し、この計画で目指す社会の実現に貢献し、教育、学術及び文化の発展に寄与するものでなくてはならない。

また、文化財や博物館・美術館等は地域振興や経済など様々な分野において効果的な役割を担うことができる資源であり、様々な目的に応じた活用が期待されている。

一方、文化財はいったん滅失・毀損すれば回復することは困難であるため、文化財の価値を損ねず文化財の活用を推進していく高い意識、知識、技術を持った組織体制が求められる。

こうした考え方により、県教育委員会では県立博物館・美術館等の他に専門職員を文化資源課に配置し、文化財の保存と活用を適切に推進するための体制を整えている(表2)。

また、文化財の保存活用にあたっては、学校教育を所掌する教育局各課、図書館やげんきプラザなどの社会教育機関、平和資料館や彩の国ビジュアルプラザ、文化振興課や観光課、地域政策課、危機管理課、消防防災課など首長部局の博物館類似施設や文化・観光・防災担当など様々な機関と適切に連携・協力していくための体制の整備が必要である。

表2 文化財等の保存・活用の体制(令和元年10月現在)

埼玉県	
文化資源課	・文化財の指定・解除、調査、保存、管理、活用に関すること。 文化財保護と開発事業の調整に関すること。博物館に関すること。 (担 当) 芸術文化推進担当 指定文化財担当 史跡・埋蔵文化財担当 博物館担当 文化財活用担当
県立の博物館・美術館等	
県立歴史と民俗の博物館	
・業務内容 埼玉の歴史と民俗に関する資料を収集・保管し、総合的に研究することにより、埼玉の地域的特性を明らかにし、その成果を展示公開・情報発信するとともに、県民の学習活動や交流の場を提供する。	
県立さきたま史跡の博物館	
・業務内容 史跡埼玉古墳群及び国宝武蔵埼玉稻荷山古墳出土品をはじめとする貴重な文化財を将来にわたって確実に保存、管理し、その活用を図る。 また、埼玉県内の史跡や遺跡、また関係する資料の収集、保管、調査	

研究を進め、各市町村と連携しながらその成果を企画展や講演会で公開する。

県立嵐山史跡の博物館

- ・業務内容 史跡比企城館跡群菅谷館跡や、比企地域の中世城館跡をはじめとする貴重な文化財を将来にわたって確実に保存・管理するとともに、関係資料の収集、保管、調査研究を進め、その成果を展示等により公開する。

県立近代美術館

- ・業務内容 美術と出会い、新たな考え方や価値を発見するための体験の提供を行うとともに、人々が集い、参加し、交流する基地を目指す。
また、学校現場との連携を深めることなどにより、未来を創る子どもたちの感性と創造力を育む。

県立自然の博物館

- ・業務内容 「過去から未来へ埼玉3億年の旅 そして自然と人との共生」をテーマに自然資料を収集、保管し、調査研究して将来へ継承し、情報発信を行う。また、学習を支援して、自然に関心を持つ人材を育成し、様々な人々との連携・交流を進める。

県立川の博物館

- ・業務内容 川と人々の暮らしとの関わりに関する資料の収集、保管及び調査研究を行うとともに、その活用を図る。

県立文書館

- ・業務内容 埼玉県に関する歴史的・文化的に価値のある行政文書、古文書、地図などの記録資料を収集し整理を行い、県民共有の財産として保存に努めるとともに、史料編さん事業によりこれらの記録資料の活用を図る。

さいたま文学館

- ・業務内容 文学資料の収集、保管、調査研究、展示及び閲覧や県民の文学活動の支援を行う。

文化財関係団体

埼玉県文化財保護審議会

- ・審議事項 教育委員会の諮問に応じて、文化財の保存及び活用に関する重要事項について調査審議し、及びこれらの事項に関して教育委員会に建議する。
- ・委員 20人以内で組織する（2019年4月1日現在18人）。
委員会には以下の部会が設置されている。
 - 第1部会：有形文化財（考古資料を除く）に関する事項。
 - 第2部会：無形文化財、民俗文化財、文化財保存技術に関する事項。
 - 第3部会：史跡、旧跡、考古資料に関する事項。
 - 第4部会：名勝、天然記念物に関する事項。

その他の団体・会議

(公財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団

- ・活動内容 埼玉県内の埋蔵文化財の調査研究及び、主に、国や県などが行う公共工事に伴う記録保存を行うとともに、埋蔵文化財の保護思想の啓発、普及事業を行っている。
- ・職員構成 埋蔵文化財専門職員を中心に事務系職員を含めて構成

埼玉県博物館連絡協議会

- ・活動内容 埼玉県内に所在する博物館・美術館等の相互連絡提携を目的として、先進的な内容の研究会や県外の博物館研修などの活動を行う。
また、県内を東北部・西部・南部・秩父の四つの地域におけたブロック活動を行っている。
- ・構成員 県内公立及び私立の博物館・美術館等

埼玉県文化財保護協会

- ・活動内容 県、市町村の文化財保護行政の進展と文化財愛護活動の普及と向上に寄与するため、調査研究、講習会、講演会などを行う。
- ・構成員 市町村文化財主管課、文化財保護審議会委員等

埼玉県地域史料保存活用連絡協議会

- ・活動内容 県内に残された文化遺産としての歴史的公文書や古文書等の記録資料の保存、公開体制の推進や普及を行う。
- ・構成員 歴史的公文書や古文書等の記録資料の保存・公開に係る県・市町村の担当課所館。

市町村との連携にかかるとの会議

埼玉縣市町村文化財保護行政主管課長連絡協議会

- ・役割 県からの文化財保護行政に係る報告・連絡と意見交換。

埼玉縣市町村文化財保護行政担当者会

- ・役割 市町村の文化財保護行政に係る事項の協議と、県からの文化財保護行政に係る連絡。

埼玉県埋蔵文化財諸問題検討委員会

- ・役割 埋蔵文化財保護行政に係る課題の検討。

県・県教育委員会及び県立博物館・美術館等刊行の調査報告書等一覧

※埼玉県館郷土資料室、県民部県史編さん室、県立浦和図書館、教育局社会教育課は現在は組織廃止

○ 埼玉県

書名	刊行年	備考
自治資料埼玉県史蹟名勝天然記念物調査報告 第1輯	1923年	
自治資料埼玉県史蹟名勝天然記念物調査報告 第2輯 明治天皇御遺蹟之部	1924年	
自治資料埼玉県史蹟名勝天然記念物調査報告 第3輯 史蹟之部	1926年	
自治資料埼玉県史蹟名勝天然記念物調査報告 第4輯 史蹟及天然記念物之部	1928年	
埼玉県史 第2巻 奈良平安時代	1931年	
自治資料埼玉県史蹟名勝天然記念物調査報告 第5輯 史蹟及天然記念物之部	1933年	
保存指定同仮指定埼玉県史蹟名勝天然記念物	1933年	
埼玉県史 第3巻 鎌倉時代	1933年	
埼玉県史 第4巻 関東管領時代	1934年	
埼玉県史 第5巻 江戸時代前期	1936年	
埼玉県史	1937年	
埼玉県史 第6巻 江戸時代後期	1937年	
埼玉県史	1939年	
埼玉県史 第7巻 近代	1939年	
埼玉県史 第1巻 先史原史時代	1951年	
新編埼玉県史 資料編 10(近世 1) 地誌	1979年	
新編埼玉県史 資料編 6(中世 2) 古文書	1980年	
新編埼玉県史 資料編 1(原始) 旧石器・縄文	1980年	
新編埼玉県史 資料編 11(近世 2) 騒擾	1981年	
新編埼玉県史 別編 5 統計	1981年	
新編埼玉県史 資料編 2(原始・古代) 弥生・古墳	1982年	
新編埼玉県史 資料編 5(中世 1) 古文書	1982年	
新編埼玉県史 資料編 12(近世 3) 文化	1982年	
新編埼玉県史 資料編 23(近代・現代 5) 社会・労働	1982年	
新編埼玉県史 資料編 21(近代・現代 3) 産業・経済	1982年	
新編埼玉県史 資料編 4(古代 2) 古文書・記録	1983年	
新編埼玉県史 資料編 13(近世 4) 治水	1983年	
新編埼玉県史 資料編 19(近代・現代 1) 政治・行政	1983年	
新編埼玉県史 資料編 3(古代 1) 奈良・平安	1984年	
新編埼玉県史 資料編 15(近世 6) 交通	1984年	
新編埼玉県史 資料編 25(近代・現代 7) 教育・文化	1984年	
新編埼玉県史 資料編 7(中世 3) 記録	1985年	
新編埼玉県史 資料編 17(近世 8) 領主	1985年	
新編埼玉県史 資料編 24(近代・現代 6) 社会・労働	1985年	

新編埼玉県史 資料編 8(中世 4) 記録	1986年	
新編埼玉県史 資料編 22(近代・現代 4) 産業・経済	1986年	
荒川(荒川総合調査報告書 1) 自然	1987年	
荒川(荒川総合調査報告書 2) 人文	1987年	
新編埼玉県史 通史編 1 原始・古代	1987年	
新編埼玉県史 資料編 18(中世・近世) 宗教	1987年	
新編埼玉県史 資料編 20(近代・現代 2) 政治・行政	1987年	
荒川(荒川総合調査報告書 4) 人文	1988年	
荒川(荒川総合調査報告書 3) 人文	1988年	
新編埼玉県史 別編 1 民俗	1988年	
新編埼玉県史 通史編 2 中世	1988年	
新編埼玉県史 通史編 3 近世	1988年	
新編埼玉県史 通史編 5 近代	1988年	
新編埼玉県史 通史編 4 近世	1989年	
新編埼玉県史 通史編 6 近代	1989年	
新編埼玉県史 資料編 9(中世 5) 金石文・奥書	1989年	
新編埼玉県史 資料編 16(近世 7) 産業	1990年	
新編埼玉県史 資料編 26(近代・現代 8) 教育・文化	1990年	
新編埼玉県史 別編 4 年表・系図	1991年	
新編埼玉県史 通史編 7 現代	1991年	
新編埼玉県史 資料編 14(近世 5) 村落・都市	1991年	
中川水系(中川水系総合調査報告書 1)	1993年	
中川水系(中川水系総合調査報告書 2)	1993年	
新編埼玉県史図録	1993年	

○県民部県史編さん室

書名	刊行年	備考
埼玉県史民俗調査報告書	1980年	
埼玉県古代寺院跡調査報告書	1982年	
埼玉県古代仏教遺品調査報告書	1984年	
荒川本流河道状況図	1985年	
旧旗下相知行調	1986年	
埼玉県古式古墳調査報告書	1986年	
坂東八箇国国司表	1987年	
分限帳集成	1987年	
埼玉軍政部資料調査報告書	1990年	
中川水系総合調査・刊行事業関係文献目録	1991年	
「埼玉県史」(旧県史)写真リスト	1991年	

○埼玉県教育委員会

書名	刊行年	備考
古墳調査報告書 第1編 本庄市及び児玉郡古墳調査	1956年	

古墳調査報告書 第2編 秩父市及び秩父郡古墳調査	1957年	
古墳調査報告書 第3編南埼玉郡・北葛飾郡・岩槻市・春日部市古墳調査	1959年	
埼玉県古文書所在目録	1960年	
古墳調査報告書 第4編大里郡・熊谷市・深谷市・古墳調査	1960年	
古墳調査報告書 第5編入間地区	1961年	
民俗資料緊急調査細目 昭和38年度実施	1963年	
埼玉県指定文化財調査報告書 第2集	1963年	
埼玉県指定文化財調査報告書第2集	1963年	
古墳調査報告書 第6編北埼玉地区	1963年	
埼玉県指定文化財調査報告書第3集	1963年	
埼玉県指定文化財調査報告書第1集	1963年	
古墳調査報告書 第7編 北足立地区	1964年	
古墳調査報告書 第7編北足立地区	1964年	
古墳調査報告書 第8編 比企地区	1965年	
埼玉県指定文化財調査報告書第4集	1965年	
古墳調査報告書 第8編比企地区	1965年	
埼玉県指定文化財調査報告書第5集	1967年	
埼玉県指定文化財調査報告書第6集	1969年	
秩父郡上吉田民俗調査報告書	1969年	
秩父市浦山民俗調査報告書	1969年	
埼玉県秩父郡横瀬村根古屋鍾乳洞	1969年	
埼玉県指定文化財調査報告書第7集	1970年	
埼玉県指定文化財調査報告書第8集	1971年	
埼玉県動物誌仮目録 第1集	1972年	
埼玉県動物誌仮目録 第2集	1972年	
埼玉県の民家	1972年	
武蔵丘陵森林公園周辺地域文化財総合調査報告書	1972年	文化財保護室文化財第二係編、埼玉県教育委員会発行
埼玉県動物誌仮目録 第3集	1973年	
埼玉県指定文化財調査報告書第9集	1973年	
埼玉県指定文化財調査報告書第10集	1974年	
埼玉県指定文化財調査報告書第11集	1976年	
埼玉県史跡名勝天然記念物調査報告書第1集天然記念物緊急調査報告	1976年	
埼玉県遺跡発掘調査報告書第14集菅谷館跡	1977年	
埼玉の万作(埼玉県民俗芸能緊急調査報告書第1集)	1978年	文化財保護課編、埼玉県教育委員会発行
埼玉県史跡名勝天然記念物調査報告書第2集天然記念物緊急調査報告	1978年	
埼玉県立浦和第一女子高等学校旧本館校舎調査報告書	1979年	埼玉県立浦和第一女子高等学校校舎調査団編 埼玉県教育委員会
埼玉県明治建造物緊急調査報告書	1979年	埼玉県教育委員会編集・発行
埼玉県民俗地区	1979年	
埼玉県指定文化財調査報告書第12集	1980年	
埼玉の神楽(埼玉県民俗芸能緊急調査報告書第2集)	1980年	文化財保護課編、埼玉県教育委員会発行

八幡山古墳石室復原報告書	1980年	
埼玉の地芝居(埼玉県民俗芸能緊急調査報告書第3集)	1981年	
埼玉の文化財建造物・絵画編(埼玉の文化財シリーズ1)	1981年	
埼玉の民謡	1981年	
埼玉県指定文化財調査報告書第13集	1982年	
埼玉稲荷山古墳辛亥銘鉄剣修理報告書	1982年	
埼玉県史跡名勝天然記念物調査報告書第3集天然記念物緊急調査報告	1982年	
獅子舞の分布と伝承(埼玉県民俗芸能緊急調査報告書第4集)	1982年	
歴史の道調査参考資料 昭和57年度	1983年	
埼玉県文学資料所在調査集録 昭和58年度 短歌・俳句編	1984年	埼玉県教育局社会教育課
埼玉県指定文化財調査報告書第14集	1984年	
埼玉の近世社寺建築(埼玉県有形文化財調査報告書1)	1984年	埼玉県教育委員会編集、埼玉県文化財保護協会発行
埼玉県文学資料所在調査集録 昭和59年度 小説・詩編	1985年	埼玉県教育局社会教育課
埼玉県大正建造物緊急調査報告書(埼玉県有形文化財調査報告書2)	1985年	埼玉県教育委員会編集・発行
埼玉の祭り(埼玉県祭礼基本資料収集調査報告書)	1985年	文化財保護課編、埼玉県教育委員会発行
埼玉県重要遺跡緊急調査報告書1(埼玉県埋蔵文化財調査報告書第14集)	1985年	
埼玉県文学資料調査 昭和60年度 児童文学、伝説・民話、戯曲編	1986年	埼玉県教育局社会教育課
埼玉県指定文化財調査報告書第15集	1986年	
埼玉県重要遺跡緊急調査報告書2(埼玉県埋蔵文化財調査報告書第15集)	1986年	
埼玉県文学資料所在調査 昭和61年度 評論・随筆・日記・書簡	1987年	埼玉県教育局社会教育課
埼玉県文学資料所在調査 昭和62年度 漢詩文・翻訳文・同人誌・結社誌	1988年	埼玉県教育局社会教育課
埼玉県指定文化財調査報告書第16集	1988年	
秩父地方の火祭り(秩父の山村民俗文化財調査事業報告書第1集)	1989年	
埼玉県指定文化財調査報告書第17集	1990年	
秩父地方の火祭り2(秩父の山村民俗文化財調査事業報告書第2集)	1990年	
金工品所在緊急調査報告書1	1991年	
埼玉県指定文化財調査報告書第18集	1992年	
埼玉県の民俗芸能(埼玉県民俗芸能緊急調査報告書)	1992年	民俗文化センター編、埼玉県教育委員会発行
埼玉県仏教絵画調査報告書	1993年	
埼玉県指定文化財調査報告書第19集	1993年	
埼玉県指定文化財調査報告書第20集	1997年	
埼玉県歴史的遺産調査報告書	1997年	
埼玉県指定文化財調査報告書第21集(平成7・8・9年分)	1999年	
県指定天然記念物<植物>緊急現状調査報告書平成10年度	1999年	
埼玉県指定文化財調査報告書第22集(平成10・11・12年分)	2002年	
埼玉県前期旧石器問題検討報告書	2002年	
埼玉県指定文化財調査報告書第23集(平成13・13・15年分)	2005年	
埼玉県指定文化財調査報告書第24集(平成16・17・18年分)	2008年	

埼玉県指定文化財調査報告書第25集(平成19・20・21年分)	2011年	
埼玉県指定文化財調査報告書26集(平成22・23・24年分)	2014年	
埼玉県の近代和風建築	2017年	
埼玉県指定文化財調査報告書第27集(平成25・26・27年度分)	2018年	

○ 歴史と民俗の博物館（旧県立博物館）

書名	刊行年	備考
埼玉百年史展	1971年	
関東の鉄仏	1973年	
寺内万治郎展	1973年	
寄贈品展示図録台湾の民具	1974年	
東北の美術	1974年	
特別展「昔の旅」展示品図録	1974年	
原始の世界	1975年	
小村雪岱展	1975年	
特別展「斎藤与里」展示品図録	1975年	
美術鑑賞入門講座テキスト	1975年	
歴史講座ジュニアコーステキスト	1975年	
埼玉県立博物館展示概要	1976年	
さいたまの肖像	1976年	
近代埼玉の書	1977年	
埼玉県立博物館展示解説 歴史 1	1977年	
戦国武将展	1977年	
「はにわ展」展示品目録	1978年	
「奥原晴湖展」図録	1978年	
「奥原晴湖展」展示品目録	1978年	
埼玉のやきもの	1978年	
埼玉の近代美術	1978年	
特別展「近世埼玉の文人」展示品目録	1978年	
埼玉の近代美術（埼玉県立博物館巡回展 昭和54年度）	1979年	
埼玉県立博物館展示解説 郷土学習	1979年	
特別展「絵馬」展示品図録	1979年	
弁当箱にみる用と美	1979年	
埼玉の指定文化財展	1980年	
埼玉県立博物館展示解説 歴史 2	1980年	
特別展「胎内納入品をもつ仏像」陳列品目録	1980年	
埼玉県立博物館展示解説 近代美術	1981年	
特別展「江戸のよそおい」展示品目録	1981年	
特別展「板碑」	1981年	
特別展江戸のよそおい	1981年	
編む	1981年	

古代東国の甕	1982年	
古代東国の甕 別冊	1982年	
埼玉県立博物館展示解説 民俗	1982年	
寿能泥炭層遺跡発掘調査報告書 自然遺物編	1982年	埼玉県立博物館編、埼玉県教育委員会発行
特別展木と漆の原始工芸	1982年	
板碑	1982年	
Renew	1983年	
武蔵武士	1983年	
荒川の漁具漁・祖おやの譜録	1984年	
埼玉県寺院聖教文書遺品調査報告書 1 目録編	1984年	埼玉県立博物館編、埼玉県教育委員会発行
埼玉県寺院聖教文書遺品調査報告書 2解説・史料編	1984年	埼玉県立博物館編、埼玉県教育委員会発行
寿能泥炭層遺跡発掘調査報告書 人工遺物・総括編(遺構・遺物)	1984年	埼玉県立博物館編、埼玉県教育委員会発行
寿能泥炭層遺跡発掘調査報告書 人工遺物・総括編(遺構・遺物)	1984年	埼玉県立博物館編、埼玉県教育委員会発行
寿能泥炭層遺跡発掘調査報告書 人工遺物・総括編(写真図版)	1984年	埼玉県立博物館編、埼玉県教育委員会発行
寿能泥炭層遺跡発掘調査報告書 人工遺物・総括編(写真図版)	1984年	埼玉県立博物館編、埼玉県教育委員会発行
寿能泥炭層遺跡発掘調査報告書 人工遺物・総括編(分析調査・考察・総括)	1984年	埼玉県立博物館編、埼玉県教育委員会発行
寿能泥炭層遺跡発掘調査報告書 人工遺物・総括編(分析調査・考察・総括)	1984年	埼玉県立博物館編、埼玉県教育委員会発行
日光御成道(歴史の道調査報告書 第2集)	1984年	埼玉県立博物館編、埼玉県教育委員会発行
浮世絵	1984年	
北武蔵 杖刀人とその時代	1984年	
メキシコの民芸	1985年	
激動の昭和	1985年	
江戸の風俗	1985年	
宿場	1985年	
日光道中(歴史の道調査報告書 第3集)	1985年	埼玉県立博物館編、埼玉県教育委員会発行
日光脇往還(歴史の道調査報告書 第4集)	1985年	埼玉県立博物館編、埼玉県教育委員会発行
美術工芸品(彫刻)所在緊急調査報告書 1	1985年	
かお	1986年	
海上之邦おきなわ	1986年	
古代の祭祀(まつり)	1986年	
古代メキシコオルメカ文明展	1986年	
秩父往還(歴史の道調査報告書 第6集)	1986年	埼玉県立博物館編、埼玉県教育委員会発行
中山道(歴史の道調査報告書 第5集)	1986年	埼玉県立博物館編、埼玉県教育委員会発行
美術工芸品(彫刻)所在緊急調査報告書 2	1986年	
山西省文物展	1987年	
秩父	1987年	
美術工芸品(彫刻)所在緊急調査報告書 3	1987年	
武蔵ゆかりの武器・武具	1987年	
「さいたまの円空」展示図録	1988年	

日本のあけぼの	1988年	
遊びとおもちゃ	1988年	
「古墳-かざり大刀の世界」展示目録	1989年	
クィーンズランド文化展	1989年	
古墳	1989年	
埼玉県土偶出土遺跡地名表	1989年	
樹盆その歴史と美	1989年	
比企	1989年	
さいたまの海	1990年	
酒の文化史	1990年	
川越街道（歴史の道調査報告書 第12集）	1990年	埼玉県立博物館編、埼玉県教育委員会発行
大針貝塚・浮谷貝塚	1990年	
秩父甲州往還（歴史の道調査報告書 第11集）	1990年	埼玉県立博物館編、埼玉県教育委員会発行
秩父地方歴史資料所在調査報告書	1990年	
南蛮の美術	1990年	
おかね百態	1991年	
さいたまの名宝	1991年	
綾瀬川の水運（歴史の道調査報告書 第14集）	1991年	埼玉県立博物館編、埼玉県教育委員会発行
元荒川の水運（歴史の道調査報告書 第13集）	1991年	埼玉県立博物館編、埼玉県教育委員会発行
展示ガイド 埼玉における人々のくらしと文化	1991年	
特別展音のかたち	1991年	
かたどられた祈り	1992年	
歌仙絵の世界	1992年	
喫茶の考古学	1992年	
江戸のからくり夢空間	1992年	
つぼ・かめ・すりばち	1993年	
河童vs天狗	1993年	
比企岩殿観音とその門前町	1993年	
武蔵武士奉納の国宝「短刀」	1993年	埼玉県立博物館編、埼玉県教育委員会発行
甦る光彩	1993年	
鯨絵	1993年	
検証！関東の弥生文化	1994年	
子育ての原風景	1994年	
神庭洞窟発掘調査報告書	1994年	
奉納された道中アルバム	1994年	
お天気の文化史	1995年	
古代東国の渡来文化	1995年	
埼玉県の近代化遺産	1996年	埼玉県立博物館編、埼玉県教育委員会発行
太平記絵巻の世界	1996年	
美の匠たち	1996年	
埼玉の札所めぐり	1997年	

女帝明正天皇と将軍家光	1997年	埼玉県立博物館、霞会館著
図録太平記絵巻	1997年	埼玉県立博物館編、埼玉新聞社発行
わくわくタイムトンネル	1998年	
桜花爛漫	1998年	
女性はにわ	1998年	
人形と張り子	1998年	
アイヌの四季と生活	1999年	アイヌ文化振興・研究推進機構 編、埼玉県立博物館発行
さいたまの鉄道	1999年	
さいたまの名宝シリーズ 2 新指定の美術工芸品	1999年	
ゆ	1999年	
将軍吉宗と宮廷「雅」	2000年	埼玉県立博物館、霞会館編、埼玉県立博物館発行
さいたまの名宝シリーズ 3 神楽の風景	2001年	
越生町の仏像	2001年	埼玉県民部県史編さん室著、埼玉県立博物館発行
KEMARI 蹴鞠	2002年	
中山道	2002年	埼玉県立博物館他編、板橋区立郷土資料館
めざせ日本の近代化	2002年	
開設四百年中山道	2002年	
太平記絵巻 第10巻	2002年	
めざめろ古代(埼玉の名宝シリーズ 4)	2003年	
埼玉の古墳	2003年	
太平記絵巻 第6巻	2003年	
平林寺	2003年	
国宝太刀・短刀と太平記絵巻	2004年	
羽子板の美とわざ	2005年	
歓喜院聖天堂の建築彫刻	2005年	
埼玉・歴史の道50話	2005年	埼玉県立博物館編著、埼玉新聞社発行
埼玉発掘50年史	2005年	
芸能絵巻	2006年	
天下をまわって1300年お金めぐる社会史	2006年	
展示ガイド 埼玉における人々のくらしと文化	2006年	
由来伝来名刀の一千年	2006年	
お伊勢さんと武蔵(霞会館資料 第30輯)	2007年	霞会館資料展示委員会編、発行
ゆめ・体験ひろばガイドブック	2007年	
荒川大パノラマ	2007年	友利宇景 / [画] 出版社 歴史と民俗の博物館
埼玉の絵馬	2007年	
埼玉遊覧案内	2007年	
小江戸川越	2007年	著者 / 安久津 和巳 出版社 歴史と民俗の博物館
秩父地方の神楽(埼玉県民俗芸能調査報告書 第17集)	2007年	
埼玉・歴史の道50話	2008年	

埼玉サッカー100周年記念展示図録	2008年	さいたま市立浦和博物館編、埼玉県立歴史と民俗の博物館編、埼玉大学編
埼玉の注染	2008年	
日本の色彩	2008年	
名もなき至宝	2008年	
いただきます	2009年	
金鑽神楽(埼玉県民俗芸能調査報告書) 歴史・資料編	2009年	
出張博物館in深谷	2009年	
新収集品展 2005-2007	2009年	
誕生武蔵武士	2009年	
金鑽神楽 2(埼玉県民俗芸能調査報告書) 演出・芸態編	2010年	
雑兵物語の世界	2010年	
新収集品展 2008-2009	2010年	
仏教伝来埼玉の古代寺院	2010年	
「ミュージアムヴィレッジ大宮公園」整備推進事業	2011年	
円空ころを刻む	2011年	
皇女和宮と中山道	2011年	
大宮住吉神楽(埼玉県民俗芸能調査報告書)	2011年	
大名と藩	2012年	
職人の「わざ」と「カタ」	2012年	
神楽を楽しむ	2012年	
『新篇武蔵風土記稿』の世界(博物館ブックレット 第1集)	2013年	
絵で語る埼玉の民話(博物館ブックレット 第2集)	2013年	
埼玉じてんしゃ物語	2013年	
埼玉の夏祭り調査概報 1 北足立・北埼玉・南埼玉・北葛飾	2013年	
狩野派と橋本雅邦	2013年	橋本雅邦 / [画]、埼玉県立歴史と民俗の博物館編
発掘された木の道具	2013年	
わくわく埼玉県歴史ロマンの旅	2014年	埼玉県立歴史と民俗の博物館編、学陽書房発行
江戸の街道(みち)	2014年	
国宝金錯銘鉄剣復元制作報告書	2014年	
埼玉の夏祭り調査概報 2 入間・比企・大里	2014年	
特別展「渋沢敬三没後50周年記念事業 屋根裏部屋の博物館 -Attic Museum-」展示解説パンフレット	2014年	
甦る鉄剣	2014年	
慈光寺	2015年	
戦国図鑑	2015年	
企画展「埼玉の自由民権」展示解説書	2015年	
企画展「氷川神社と大宮公園」展示解説書	2015年	
埼玉の夏祭り調査概報 3 秩父・児玉	2015年	
徳川家康	2016年	
鯉絵(博物館ブックレット 第3集)	2016年	
高麗郡1300年	2016年	

巡り・廻りの民俗行事調査概報 1 廻り地蔵と回り念仏	2017年	
上杉家の名刀と三十五腰	2017年	米沢市上杉博物館編、佐野美術館編、埼玉県立歴史と民俗の博物館編
ダムと変わる！私たちの暮らし	2018年	
企画展「古文書大公開！—みる・よむ・しらべる埼玉—」展示解説リーフレット	2018年	
巡り・廻りの民俗行事調査概報 2	2018年	
明治天皇と氷川神社	2018年	
東国の地獄極楽	2019年	
埼玉の官衙 (博物館ブックレット 第4集)	2019年	
巡り・廻りの民俗行事調査概報 3	2019年	

○ 民俗文化センター（現在は歴史と民俗の博物館に統合）

書名	刊行年	備考
埼玉県立民俗文化センター展示案内	1980年	
埼玉県民俗工芸調査報告書 第1集 長板中型	1982年	
下間久里の獅子舞 (埼玉県民俗芸能調査報告書 第1集)	1982年	
埼玉の人形芝居用具 上巻	1982年	埼玉県立民俗文化センター編、埼玉県教育委員会発行
わざの博物館施設・設備	1982年	
榎の祭礼と囃子・神楽 (埼玉県民俗芸能調査報告書 第2集)	1983年	
埼玉県立民俗文化センター展示解説	1983年	
埼玉の人形芝居用具 下巻	1983年	埼玉県立民俗文化センター編、埼玉県教育委員会発行
埼玉県民俗工芸緊急調査報告書 第1集 唐臼	1984年	
埼玉県民俗工芸調査報告書 第2集 青縞	1984年	
船川の信願相撲 (埼玉県民俗芸能調査報告書 第3集)	1984年	
埼玉県立民俗文化センター展示解説	1984年	
埼玉県民俗工芸緊急調査報告書 第2集 曲物	1985年	
埼玉県民俗工芸調査報告書 第3集 埼玉の鍛冶	1985年	
原馬室の獅子舞・棒術 (埼玉県民俗芸能調査報告書 第4集)	1985年	
川越の職人 昭和59年度	1985年	
埼玉県民俗工芸緊急調査報告書 第3集 刳物	1986年	
埼玉県民俗工芸調査報告書 第4集 埼玉のかわら	1986年	
武州藍 昭和60年度	1986年	
毛呂の流鏝馬 (埼玉県民俗芸能調査報告書 第5集)	1986年	
わざの博物館	1986年	
わざの博物館展示解説	1986年	
埼玉県民俗工芸調査報告書 第5集 埼玉の桐細工	1987年	
埼玉の餅搗き踊り (埼玉県民俗芸能調査報告書 第6集)	1987年	
わざの博物館展示解説	1987年	
埼玉県の諸職	1988年	
埼玉県民俗工芸調査報告書 第6集 埼玉の雛人形	1988年	
埼玉の祭り囃子 1 (埼玉県民俗芸能調査報告書 第7集) 児玉・大里地方編	1988年	

埼玉県民俗工芸調査報告書 第7集 埼玉の木型	1989年
埼玉の瓦職人(映像記録 昭和63年度)	1989年
埼玉の祭り囃子 2(埼玉県民俗芸能調査報告書 第8集) 秩父地方編	1989年
わざの博物館展示解説	1989年
埼玉県民俗工芸調査報告書 第8集 熊谷染	1990年
埼玉の祭り囃子 3(埼玉県民俗芸能調査報告書 第9集) 比企・入間地方編	1990年
わざの博物館展示解説	1990年
埼玉県民俗工芸調査報告書 第9集 小川和紙	1991年
さいたまの職人	1991年
入間地方の神楽太夫	1992年
北川辺の祭り囃子	1992年
埼玉県の民俗芸能(埼玉県民俗芸能緊急調査報告書)	1992年
埼玉の祭り囃子 4(埼玉県民俗芸能調査報告書 第10集) 入間地方編	1992年
県南の神楽太夫	1993年
埼玉県民俗工芸調査報告書 第10集 押絵羽子板	1993年
埼玉のオビシヤ行事	1994年
埼玉の祭り囃子 5(埼玉県民俗芸能調査報告書 第11集) 北足立地方編	1994年
埼玉県民俗工芸調査報告書 第11集 埼玉の竹細工	1995年
技と芸	1996年
埼玉の祭り囃子 6(埼玉県民俗芸能調査報告書 第12集) 北埼玉・南埼玉・北葛飾郡地方編	1996年
埼玉の祭り・行事	1997年
金工・土石(民俗工芸収蔵資料解説目録 3)	1997年
埼玉の草屋根葺き(埼玉県民俗工芸調査報告書 第12集)	1997年
埼玉の祭り囃子 7(埼玉県民俗芸能調査報告書 第13集) 北足立地方編	1998年
埼玉の和菓子(埼玉県民俗工芸調査報告書 第13集)	1999年
秩父地方の神楽(埼玉県民俗芸能調査報告書 第14集)	2000年
鷲宮催馬楽神楽(埼玉県民俗芸能調査報告書 第15集)	2002年
埼玉の和菓子(埼玉県民俗工芸調査報告書 第13集)	2002年
鴻巣の赤物(埼玉県民俗工芸調査報告書 第14集)	2003年
さいたまの職人 2	2003年
埼玉の民俗芸能 1	2004年
埼玉の民俗芸能 2	2004年
埼玉の民俗芸能 3	2004年
玉敷神社神楽(埼玉県民俗芸能調査報告書 第16集)	2004年
埼玉の民俗芸能 4	2005年
埼玉の船大工(埼玉県民俗工芸調査報告書 第15集)	2005年
埼玉の民俗芸能 5	2005年
さいたまの職人 3	2006年
埼玉の民俗芸能 6	2006年
わざの博物館の軌跡	2006年

○ さきたま史跡の博物館（旧さきたま資料館）

書名	刊行年	備考
埼玉古墳群とその周辺	1976年	
さきたま民俗暦（資料館小報 2）	1977年	
埼玉県立さきたま資料館特別展 第8回	1977年	
埼玉稻荷山古墳	1980年	埼玉県教育委員会編
埼玉稻荷山古墳辛亥銘鉄剣修理報告書	1982年	埼玉県教育委員会編
池守・池上	1984年	さきたま資料館編、埼玉県教育委員会発行
愛宕山古墳（埼玉古墳群発掘調査報告書 第3集）	1985年	さきたま資料館編、埼玉県教育委員会発行
鉄砲山古墳（埼玉古墳群発掘調査報告書 第2集）	1985年	さきたま資料館編、埼玉県教育委員会発行
稻荷山古墳	1985年	さきたま資料館編、埼玉県教育委員会発行
北武蔵の農具 実測図編	1985年	
北武蔵の農具 目録編	1985年	
北武蔵の農具 写真編	1985年	
さきたま古墳群と北武蔵の農具	1986年	さきたま資料館編、埼玉県県政情報資料室発行
瓦塚古墳（埼玉古墳群発掘調査報告書 第4集）	1986年	さきたま資料館編、埼玉県教育委員会発行
荒川の水運（歴史の道調査報告書 第7集）	1987年	さきたま資料館編、埼玉県教育委員会発行
新河岸川の水運（歴史の道調査報告書 第8集）	1987年	さきたま資料館編、埼玉県教育委員会発行
二子山古墳（埼玉古墳群発掘調査報告書 第5集）	1987年	さきたま資料館編、埼玉県教育委員会発行
人間川の水運（歴史の道調査報告書 第9集）	1988年	さきたま資料館編、埼玉県教育委員会発行
はにわ人（びと）の世界	1988年	
丸墓山古墳・埼玉1～7号墳・将軍山古墳（埼玉古墳群発掘調査報告書 第6集）	1988年	さきたま資料館編、埼玉県教育委員会発行
利根川の水運（歴史の道調査報告書 第10集）	1989年	さきたま資料館編、埼玉県教育委員会発行
奥の山古墳・瓦塚古墳・中の山古墳（埼玉古墳群発掘調査報告書 第7集）	1989年	さきたま資料館編、埼玉県教育委員会発行
奥の山古墳・瓦塚古墳・中の山古墳（埼玉古墳群発掘調査報告書 第7集 別冊）	1989年	さきたま資料館編、埼玉県教育委員会発行
古代東国の武人たち	1989年	
古墳の年代をはかる	1990年	
古墳詳細分布調査概報 1	1991年	さきたま資料館編、埼玉県教育委員会発行
くらしの中の神々	1991年	
二子山古墳・瓦塚古墳（埼玉古墳群発掘調査報告書 第8集）	1992年	さきたま資料館編、埼玉県教育委員会発行
さきたまの古墳	1992年	
さきたま将軍山古墳と銅鏡	1992年	
古墳詳細分布調査概報 3	1993年	
キツネは踊る	1993年	
埼玉県古墳詳細分布調査報告書	1994年	さきたま資料館編、埼玉県教育委員会発行
石のみほとけ	1994年	埼玉会館
さきたまの古墳と民俗	1995年	
将軍山古墳	1997年	さきたま資料館編、埼玉県教育委員会発行
古墳時代の馬の装い	1997年	

ガイドブックさきたま	1998年	
古代金石文と倭の五王の時代	1998年	
ここまでわかった！ 稲荷山古墳	1998年	
北武蔵の農具	2004年	
史跡埼玉古墳群保存整備基本計画(基礎資料調査及び現状分析)	2006年	埼玉県立さきたま史跡の博物館編、埼玉県教育委員会
史跡埼玉古墳群保存整備基本計画	2007年	埼玉県立さきたま史跡の博物館編、埼玉県教育委員会
吉見の百穴と東日本の横穴墓	2007年	さきたま史跡の博物館編、埼玉県教育委員会発行
武蔵埼玉稲荷山古墳	2007年	さきたま史跡の博物館編、埼玉県教育委員会発行
「稲荷山」出現以前の古墳	2010年	
祈りとまじないの考古学	2010年	
スローフードの考古学	2011年	
原始・古代の職人集団	2012年	
古代の豪族	2013年	
奥の山古墳発掘調査・保存整備事業報告書	2014年	さきたま史跡の博物館編、埼玉県教育委員会発行
古墳の終焉と律令時代の幕開け(企画展 平成27年度)	2015年	
埼玉の古墳 1(企画展 平成28年度)比企・入間	2016年	
埼玉の古墳 2(企画展 平成29年度)秩父・児玉・大里	2017年	
埼玉の古墳 3(企画展 平成30年度)北足立・北埼玉・南埼玉・北葛飾	2018年	
史跡埼玉古墳群総括報告書 1	2018年	さきたま史跡の博物館編、埼玉県教育委員会発行
史跡埼玉古墳群稲荷山古墳礫槨模型設置事業報告書	2019年	さきたま史跡の博物館編、埼玉県教育委員会発行
史跡埼玉古墳群保存活用計画	2019年	さきたま史跡の博物館編、埼玉県教育委員会発行

○ 嵐山史跡の博物館(旧歴史資料館)

書名	刊行年	備考
板石塔婆緊急調査報告概要 昭和51年度	1977年	
菅谷館跡(埼玉県埋蔵文化財調査報告 第6集)	1977年	埼玉県教育委員会
板石塔婆緊急調査報告概要 昭和52年度	1978年	
埼玉県立歴史資料館	1978年	
板石塔婆緊急調査報告概要 昭和53年度	1979年	
板石塔婆緊急調査概要 昭和54年度	1980年	
菅谷館跡周辺歴史的環境保全調査報告書	1980年	
菅谷館跡環境整備基本構想	1980年	
埼玉県板石塔婆所在地目録	1981年	歴史資料館編、埼玉県教育委員会発行
埼玉県板石塔婆調査報告書 1 本文・図版編	1981年	歴史資料館編、埼玉県教育委員会発行
埼玉県板石塔婆調査報告書 2 資料編	1981年	歴史資料館編、埼玉県教育委員会発行
埼玉県板石塔婆調査報告書 3 資料編	1981年	歴史資料館編、埼玉県教育委員会発行
県内鎌倉街道伝承地所在確認調査報告書	1982年	歴史資料館編、埼玉県教育委員会発行
菅谷館跡環境整備事業実施報告書 昭和50年度～昭和60年度	1982年	歴史資料館編、埼玉県教育委員会発行
鎌倉街道上道(歴史の道調査報告書 第1集)	1983年	歴史資料館編、埼玉県教育委員会発行

秩父の通過儀礼(民俗資料調査報告書 第1集)	1983年	
中世城館跡調査概報 1	1984年	歴史資料館編、埼玉県教育委員会発行
畠山重忠墓	1984年	埼玉県立歴史資料館編、川本町教育委員会発行
菅谷館跡(資料館ガイドブック 1)	1984年	
中世城館跡調査概報 2	1985年	歴史資料館編、埼玉県教育委員会発行
麦作りとその用具(民俗資料調査報告書 第2集)	1985年	
鎌倉街道(上道)(資料館ガイドブック No. 2)	1985年	
小正月とモノヅクリ(民俗資料調査報告書 第3集)	1986年	
中世城館跡調査概報 3	1986年	歴史資料館編、埼玉県教育委員会発行
板石塔婆(資料館ガイドブック 3)	1986年	
埼玉県立歴史資料館	1986年	
埼玉の古代窯業調査報告書	1987年	歴史資料館編、埼玉県教育委員会発行
中世城館跡調査概報 4	1987年	歴史資料館編、埼玉県教育委員会発行
農間余業とその用具(民俗資料調査報告書 第4集)	1987年	
中世の城館跡 埼玉県入間・比企地方(資料館ガイドブック 4)	1987年	
埼玉の中世城館跡	1988年	歴史資料館編、埼玉県教育委員会発行
中世の城館跡 埼玉県秩父・児玉地方(資料館ガイドブック 5)	1988年	
中世の城館跡 埼玉県大里・北埼玉地方(資料館ガイドブック 6)	1989年	
中世寺院跡調査概報 1	1989年	歴史資料館編、埼玉県教育委員会発行
中世寺院跡調査概報 2	1990年	歴史資料館編、埼玉県教育委員会発行
中世の城館跡 埼玉県北足立・南埼玉・北葛飾地方(資料館ガイドブック 7)	1990年	
中世寺院跡調査概報 3	1991年	歴史資料館編、埼玉県教育委員会発行
埼玉の流鏝馬(資料館ガイドブック 8)	1991年	
埼玉の中世寺院跡	1992年	歴史資料館編、埼玉県教育委員会発行
秩父巡礼道(歴史の道調査報告書 第15集)	1992年	歴史資料館編、埼玉県教育委員会発行
天上へ向かうかたち	1992年	
瓦塔・瓦堂解体修復報告書	1993年	歴史資料館編、埼玉県教育委員会発行
信州・上州道(歴史の道調査報告書 第16集)	1993年	歴史資料館編、埼玉県教育委員会発行
中世石造遺物調査概報 1	1993年	歴史資料館編、埼玉県教育委員会発行
埼玉の窯業(資料館ガイドブック 9)	1993年	
歴史資料館と菅谷館跡	1993年	
ささげられた祈り	1993年	
川越・児玉往還(歴史の道調査報告書 第17集)	1994年	歴史資料館編、埼玉県教育委員会発行
埼玉の武者絵馬(資料館ガイドブック 10)	1994年	
埼玉の瓦塔(資料館ガイドブック 11)	1994年	
埼玉の修験	1994年	
中世石造遺物調査概報 2(平成5年度)	1994年	歴史資料館編、埼玉県教育委員会発行
中世石造遺物調査概報 3(平成6年度)	1995年	歴史資料館編、埼玉県教育委員会発行
弓の民俗(資料館ガイドブック 12)	1995年	
中世石造遺物調査概報 4(平成7年度)	1996年	歴史資料館編、埼玉県教育委員会発行

中世石造遺物調査概報 5(平成8年度)	1997年	歴史資料館編、埼玉県教育委員会発行
埼玉県中世石造遺物調査報告書 1 本文・資料編	1998年	歴史資料館編、埼玉県教育委員会発行
埼玉県中世石造遺物調査報告書 2 図版編	1998年	歴史資料館編、埼玉県教育委員会発行
畠山重忠(資料館ガイドブック 13)	2002年	
埼玉の中世石塔(資料館ガイドブック 14)	2003年	
城	2005年	
戦国の城	2005年	埼玉県立歴史資料館編、高志書院発行
まほろばの里・比企	2006年	
埼玉県立歴史資料館30年のあゆみ	2006年	
中世武蔵人物列伝	2006年	埼玉県立歴史資料館編、さきたま出版会発行
武蔵武士と寺院(企画展)	2006年	
武蔵武士と寺院	2007年	「武蔵武士と寺院」シンポジウム実行委員会編、発行
後北条氏の城	2007年	
後北条氏の城	2008年	埼玉県立嵐山史跡の博物館、比企地区各市町村教育委員会著、博物館周辺文化財の複合的活用事業実行委員会発行
歩いて廻る「比企の中世・再発見」	2008年	
東国武士と中世寺院	2008年	埼玉県立嵐山史跡の博物館編、高志書院発行
板碑が語る中世	2008年	
シンポジウム秩父平氏畠山重忠とその時代	2010年	中世文化財を活用した地域連携事業実行委員会編、中世文化財を活用した地域連携事業実行委員会発行
秩父平氏畠山重忠とその時代(企画展)	2010年	
遺物が語る中世の館と城	2010年	
菅谷館の主 畠山重忠(嵐山史跡の博物館ガイドブック 1)	2011年	埼玉県立嵐山史跡の博物館、比企地区各市町村教育委員会著、博物館周辺文化財の複合的活用事業実行委員会発行
「鎌倉街道」をゆく(企画展)	2011年	
秩父平氏の盛衰	2012年	埼玉県立嵐山史跡の博物館編、勉誠出版発行
中世の災難 合戦と災害(企画展 平成24年度)	2012年	
観音霊場と武士(企画展)	2013年	
菅谷館跡(嵐山史跡の博物館ガイドブック 2)	2014年	
歩いて廻る「比企の中世・再発見」	2014年	
東国武士の精神世界	2014年	
道灌の時代(企画展)	2014年	
戦国時代は関東から始まった	2015年	
中世黎明(企画展)	2015年	
検証! 古代から中世へ 東国の視点から	2016年	
戦国を生き抜いた武将たち(企画展)	2016年	
関東の戦国末期を再考する	2017年	

○ 近代美術館

書名	刊行年	備考
現代のリアリズム	1983年	

小村雪岱	1983年	小村雪岱 / [画], 埼玉県立近代美術館
武蔵野に生きる埼玉の美術家たち	1983年	
現代のユーモア	1984年	
版画の今日	1984年	
小茂田青樹とその周辺	1984年	
現代のセルフポートレート	1985年	
メキシコの美術	1985年	
現代の白と黒	1986年	
武蔵	1986年	
荻原守衛と日本の近代彫刻	1986年	
現代のアイコン	1987年	
斎藤豊作と日本の点描	1987年	埼玉県立近代美術館 / 編, 斎藤 豊作
文人の書	1987年	
巨匠の名画100年	1987年	
花の表現	1988年	
動きの表現	1988年	
日本画の裸婦	1988年	
花の表現	1988年	
ラブソディ・イン・パリ	1988年	
椅子の美術館	1989年	
地・間・余白	1989年	
日常の小さな幸せ	1989年	
アート・エキサイティング'89開催レポート	1990年	
斎藤与里とその時代	1990年	
日本画・雨と余情	1990年	
現代の美術アメリカと日本	1991年	
線の表現	1991年	
アダムとイヴ	1992年	
宇宙樹を探せーアジア現代美術への旅	1992年	
なぜか気になる人間像	1992年	
現代陶芸うつわ考	1993年	
ニッポンの風刺	1993年	
手わざと現代	1993年	
「うつすこと」と「見ること」	1994年	
果実の受胎	1994年	
矩形の森ー思考するグリッド	1994年	
読解された風景	1994年	
やわらかく重く	1995年	
夏休みの美術館	1996年	
火の起源と神話	1996年	
埼玉県立近代美術館コレクション選100	1996年	

光の化石	1997年	
画家タナカ・ヤスシ	1997年	
辺縁航線	1998年	管懐賓 / [作], 埼玉県立近代美術館
いす・100のかたち	1998年	
自然を読む	1999年	
プラスチックの時代	2000年	
人間・像	2001年	
日本近代洋画への道	2002年	
日本近代洋画への道	2002年	
相原求一郎	2003年	相原求一郎 / [画], 埼玉県立近代美術館 / 編
高橋久雄	2003年	高橋久雄 / [画], 埼玉県立近代美術館 / 編
美術館は白亜紀の夢を見る	2006年	
遊びの美術	2006年	
木村直道	2006年	
ニュー・ヴィジョン・サイタマ 3	2007年	
都市を創る建築への挑戦	2008年	
Kawagoe art map	2010年	
New Vision Saitama 4 静観するイメージ	2011年	
日本の70年代1968-1982	2012年	
清水晃漆黒の彼方	2012年	清水晃 / [作], 埼玉県立近代美術館 / 編
吉野辰海犬の行方	2012年	吉野辰海 / [作], 埼玉県立近代美術館 / 編
たまもの	2012年	
風雅の彩り大熊家コレクション	2015年	
ディエゴ・リベラの時代	2017年	ディエゴ・リベラ / [画], 埼玉県立近代美術館 / 編
版画の景色	2018年	

○ 自然の博物館（旧自然史博物館）

書名	刊行年	備考
埼玉県立自然史博物館利用の手引	1982年	
埼玉県史跡名勝天然記念物調査報告書 第4集 特別天然記念物緊急調査報告	1983年	編集、教育委員会出版
利用の手引き(2)	1984年	
視覚障害者による触察とその考察(教育普及部門研究報告2)	1984年	
自然史博物館からみた自然観の育成(教育普及部門研究報告3)	1984年	
博物館周辺の自然観察路の開発 その1(教育普及部門研究報告1) 観察路の意義とコース試案	1984年	
埼玉県立自然史博物館展示ガイド	1985年	
埼玉の奇獣パレオパラドキシア	1985年	
埼玉の希少動物 天然記念物基礎調査報告書	1990年	編集、教育委員会出版
埼玉県立自然史博物館総合案内	1991年	
沼のいきものしらべ 2 初秋の沼	1991年	
よみがえる太古の巨大ザメ	1991年	

きのこいろいろきのこ狩りを楽しむ	1993年	
日本地質学発祥の地 秩父地方の地質研究100年	1993年	
虫のからだしらべ	1996年	
虫の標本をつくろう	1997年	
埼玉のほ乳類	1997年	
特別展「埼玉の希少野生植物」	1998年	
長瀨・宝登山にハルゼミをたずねて	1999年	
山地の虫	1999年	
埼玉の希少野生動物とその仲間	2000年	
800万年前の化石林をたずねて	2000年	
未来に残したい大地の神秘 埼玉の地質・鉱物・古生物	2001年	
埼玉県の地質鉱物	2001年	編集・教育委員会発行
虫の標本づくり	2002年	
平林寺と妙音沢の地学さんぽ	2002年	
清流沿いの虫	2002年	
奥秩父の自然	2002年	
川原の石や地形の調査	2003年	
みぢかな野鳥観察	2003年	
身の回りの植生調査	2003年	
地層と化石の観察ガイド	2003年	
指標生物を利用した川の環境調査	2003年	
土壌動物の観察と調査	2003年	
里山の自然（特別展 平成15年度）	2003年	
埼玉・大地のふしぎ オールカラーガイドブック	2004年	自然の博物館編集、埼玉新聞社出版
水辺の昆虫ートンボー	2004年	
企画展「君も自然の研究者」〔平成17年度〕	2005年	
「石の用と美」図録	2005年	
巨大昆虫の世界	2006年	
よみがえる化石動物	2007年	
巨大昆虫の世界 パート2 でかい虫・へんな虫	2008年	
きのこノート	2008年	
埼玉の動・植物50話	2009年	自然の博物館編集、埼玉新聞社出版
鉱物の魅力	2009年	
埼玉圏の原始・古代人	2009年	埼玉県立自然の博物館企画、埼玉県立川の博物館発行
カエデ&もみじ	2010年	
「土の中のワンダーワールドーわからんものでいっぱいだー」解説書	2010年	
葉	2010年	埼玉県立自然の博物館企画、埼玉県立川の博物館発行
地球の窓・長瀨の自然	2011年	常設展示解説書
秩父のおごっつおう	2011年	
いまこそ、カエデ カエデ学入門	2012年	

彩発見！埼玉の太古の海の恵み展	2013年	
埼玉県立自然の博物館セミナーwithさいたま文学館「自然と文学のはざままで」平成25年度	2013年	
どうなっているの？埼玉県の動植物	2014年	
恐竜時代	2014年	
うんち・糞・フン	2015年	
パレオパラドキシア	2015年	
古秩父湾	2015年	
現代有用植物展	2016年	
神になったオオカミ	2017年	自然の博物館編、川の博物館発行
秩父鉦山	2017年	
ハチを知る	2018年	
埼玉県カモ観察地マップ	2018年	自然の博物館企画・編集、川の博物館製作
カモ・鴨	2018年	自然の博物館編、川の博物館発行
石灰岩地基礎調査報告書(埼玉県立自然の博物館自然遺産調査 1)	2019年	
埼玉の自然誌	2019年	
知って！埼玉	2019年	
根・子・ねずみ	2019年	自然の博物館編、川の博物館発行

○ 川の博物館（旧さいたま川の博物館）

書名	刊行年	備考
集まれ日本のあばれ川	1997年	さいたま川の博物館準備事務所編
記憶の中の川遊び	1997年	さいたま川の博物館編集、菌部 澄 著
川の旅びと・鮭	1998年	
水のデザイン	1998年	
さいたま川の博物館利用の手引き	1999年	
甲武信源流物語	1999年	
パナマ運河	1999年	
野外観察ノート 構造物	1999年	
鮎を語る 1	1999年	
三途の川	1999年	
さいたま川の博物館展示解説書	1999年	
野外観察ノート 水生動物	1999年	
龍神	2000年	
天の川に願いを	2000年	
野外観察ノート 扇状地域編	2000年	
野外観察ノート 河岸段丘編	2001年	
初心者のためのなっとく溪流釣り	2001年	
野外観察ノート 人口河川域編	2002年	
水辺の妖怪河童	2002年	
探検！埼玉のダム	2002年	
野外観察ノート 都市河川域編	2003年	

花火	2003年	
川の関所と船橋	2003年	
荒川源流域を訪ねる	2003年	
埼玉名橋図鑑	2004年	
野外観察ノート 源流域編	2004年	
ナマズ鯰なまず大集合！	2004年	
今戸焼	2004年	
ヒトガタ流しと埼玉の雛人形	2004年	
蘇る縄文	2005年	
洪水の記憶	2005年	
水辺の宝石かわせみ	2006年	
川にまつわるお宝・大集合（企画展 平成18年度 1）	2006年	
水辺のまつり（企画展 平成18年度）	2007年	
よみがえる化石動物	2007年	
埼玉の名水	2007年	
水たまりのある風景	2008年	
あらかわのカエル・サンショウウオ	2009年	
川と海を旅する魚たち	2009年	水辺の教育メディア研究会企画・編集、埼玉県立川の博物館発行
ボタニカルアート太田洋愛の桜原画展	2010年	
カメ・カニ・スナ（夏期企画展 平成22年度）	2010年	
ひやっとコオリ（夏期企画展 平成23年度）	2011年	
あらかわの田んぼ図鑑	2012年	
世界の運河・日本の運河（春季企画展 平成23年度）	2012年	
今だって氷河時代	2012年	
和船大図鑑	2013年	
ふしぎ・かっこいい埼玉と日本の爬虫類	2014年	
荒川流域の鉱山と産業	2014年	
荒川流域の高低差まるわかりMAP	2015年	
土ってなんだろう？	2015年	
魚と人の知恵くらべ	2015年	
あざやかないきものたち	2016年	
みんなでしらべた埼玉県の爬虫類	2017年	
かわはく・荒川20年（秋季企画展 平成29年度）	2017年	
荒川・利根川・多摩川の右くらべ（春期企画展 平成29年度）	2018年	
玉淀今昔物語（春期企画展 平成30年度）	2019年	

○ さいたま文学館

書名	刊行年	備考
埼玉の豊かな文学風土	1997年	
田舎教師	1997年	
埼玉の文学	1997年	

武蔵野の文学	1998年	
加藤克巳の世界	1998年	
直木賞作家・安藤鶴夫展	1998年	
大宮公園と文学者たち	1999年	
森村誠一の証明	1999年	
永井荷風資料目録	1999年	
近代埼玉の女性文学	1999年	
企画展金子兜太の世界	2000年	
詩でつづる埼玉の風土	2000年	
塙保己一と「群書類従」	2001年	さいたま文学館編、児玉町出版
文と絵との出会い	2001年	
埼玉の時代・歴史小説	2001年	
埼玉の児童文学	2001年	
近世埼玉の文人たち	2002年	
加藤楸邨と埼玉	2002年	
少年少女雑誌の世界	2002年	
万葉漫遊	2003年	
宮沢賢治と「アザリア」の友たち	2003年	
装丁浪漫	2004年	
東京近郊一日の行楽	2004年	
Sweet Memories	2004年	
ヒアシンスハウスに夢を託して	2005年	
書跡が語る文学者の素顔	2005年	
武者小路実篤と新しき村	2006年	
秩父文学の旅	2006年	
収蔵庫からのメッセージ	2006年	
石井桃子とピーターラビット	2007年	
鉄道のある情景	2007年	
靴が鳴る	2007年	
永井荷風コレクションから	2007年	
よみがえる歴史ヒーローの伝説	2008年	
文のひびき筆のしらべ	2008年	
かな女と楸邨	2008年	
田舎教師が愛した景色	2009年	
絵本“彩”発見！	2009年	
マンガ聖地巡礼inサイタマ	2009年	
埼玉ゆかりの歌人たち	2010年	
ドリトル先生とゆかいな家族	2010年	
森は海の恋人	2010年	
文学館に猫大集合	2010年	
武蔵野を詠む	2011年	

秋谷豊	2011年	
文学館の宝箱	2011年	
中島敦が見つめた世界	2012年	
宝箱 2	2012年	
荒川と文学	2012年	
直木賞文学と埼玉	2012年	
近代俳句の革命児水原秋櫻子	2013年	
校歌	2013年	
文学者の絵	2013年	
関東大震災と東日本大震災	2013年	
利根川と文学	2014年	
森田恒友と文芸雑誌	2014年	
俳毒庵中野三允	2014年	
文字は語る	2014年	
秋山正香(あきやままさか)	2015年	
宮澤章二	2015年	
平将門	2016年	
宮沢賢治秩父路を行く	2016年	
考古学と文学	2016年	
百人一首	2016年	
埼玉の文学散歩	2017年	
さいたまの妖怪	2017年	
詩人・吉野弘	2018年	
田山花袋と明治の文学	2018年	
絵本作家飯野和好	2019年	

○ 文書館

書名	刊行年	備考
平川家・中島家・小林家文書目録(近世史料所在調査報告第12集)	1975年	
宇野家・大熊家文書目録(近世史料所在調査報告13)	1976年	
篠崎家・久保家文書目録(近世史料所在調査報告14)	1977年	
平山家・鬼久保家・吉田家文書目録(近世史料所在調査報告155)	1978年	
埼玉県古文書所在確認調査目録	1978年	文書館編、埼玉県教育委員会発行
諸家文書目録2(近世史料所在調査報告16)	1980年	
堀口家・長谷川家・船川家文書目録(近世史料所在調査報告17)	1981年	
森田家・野口家文書目録(近世史料所在調査報告18)	1982年	
埼玉縣市町村歴史関係出版物目録 追補	1983年	
坂東家・田中家・猪鼻家文書目録(近世史料所在調査報告19)	1983年	
土生津家文書目録(近世史料所在調査報告10)	1984年	
会田家・相沢家文書目録(近世史料所在調査報告6)	1984年	

宇野家・大熊家文書目録(近世史料所在調査報告 13)	1984年	
篠崎家・久保家文書目録(近世史料所在調査報告 14)	1984年	
諸家文書目録 1(近世史料所在調査報告 8)	1984年	
白石家・浅見家文書目録(近世史料所在調査報告 9)	1984年	
根岸家文書目録(近世史料所在調査報告 2)	1984年	
野中家・新井家文書目録(近世史料所在調査報告 7)	1984年	
平山家文書目録(近世史料所在調査報告 3)	1984年	
諸井家文書目録(近世史料所在調査報告 4)	1984年	
埼玉県寺院聖教文書遺品調査報告書 1 目録編	1984年	文書館編、埼玉県教育委員会発行
埼玉県寺院聖教文書遺品調査報告書 2 解説・史料編	1984年	文書館編、埼玉県教育委員会発行
諸家文書目録 3(埼玉県立文書館収蔵文書目録 第21集)	1985年	
西角井家文書目録(埼玉県立文書館収蔵文書目録 第20集)	1985年	
林家文書目録(埼玉県立文書館収蔵文書目録 第22集)	1986年	
武笠家・厚沢家・若谷家文書目録(埼玉県立文書館収蔵文書目録 第23集)	1986年	
田中(恭)家・根岸(浩)家・山口家文書目録(埼玉県立文書館収蔵文書目録 第25集)	1987年	
長嶋家松岡家文書目録(埼玉県立文書館収蔵文書目録 第24集)	1987年	
諸家文書目録 4(埼玉県立文書館収蔵文書目録 第27集)	1988年	
田口(栄)家・中川家文書目録(埼玉県立文書館収蔵文書目録 第26集)	1988年	
明星院・奥貫家・井上家文書目録(埼玉県立文書館収蔵文書目録 第28集)	1989年	
川島家・田部井家文書目録(埼玉県立文書館収蔵文書目録 第29集)	1990年	
埼玉県神社関係古文書調査報告書	1990年	文書館編、埼玉県教育委員会発行
藤城家・小島(栄)家・増田家文書目録(埼玉県立文書館収蔵文書目録 第30集)	1991年	
橋本明氏収集文書目録(埼玉県立文書館収蔵文書目録 第31集)	1992年	
大熊(正)家文書目録(埼玉県立文書館収蔵文書目録 第32集)	1993年	
埼玉県関係行政文書件名目録 戦中戦後期編 1	1993年	
埼玉県関係行政文書件名目録 戦中戦後期編 2	1994年	
斎藤(英)家・老川家・田口信吉氏収集文書目録(埼玉県立文書館収蔵文書目録 第33集)	1994年	
埼玉県史料叢書 1 埼玉県史料	1994年	埼玉県教育委員会編、埼玉県発行
埼玉県関係行政文書件名目録 戦中戦後期編 3	1995年	
諸家文書目録 5(埼玉県立文書館収蔵文書目録 第34集)	1995年	
埼玉県史料叢書 2 埼玉県史料	1995年	埼玉県教育委員会編、埼玉県発行
市町村作成地図目録 1(埼玉県立文書館収蔵地図目録)	1996年	
鈴木(庸)家文書目録(埼玉県立文書館収蔵文書目録 第35集)	1996年	
埼玉県史料叢書 8 明治期産業土木史料	1996年	埼玉県教育委員会編、埼玉県発行
小室家文書目録(埼玉県立文書館収蔵文書目録 第36集)	1997年	
埼玉県作成地図目録 1(収蔵地図目録 第2集)	1997年	
埼玉県史料叢書 3 埼玉県史料	1997年	埼玉県教育委員会編、埼玉県発行
カラーマイクロフィルム撮影地図目録 1(収蔵地図目録 第3集)	1998年	

小林(茂)家文書目録(埼玉県立文書館収蔵文書目録 第37集)	1998年	
埼玉県史料叢書 4 埼玉県史料	1998年	埼玉県教育委員会編、埼玉県発行
省庁作成地図目録 1 (収蔵地図目録 第4集)	1999年	
榎本家・八塩家・勝音寺文書目録(埼玉県立文書館収蔵文書目録 第38集)	1999年	
埼玉県史料叢書 9 明治大正期知事事務引継書	1999年	埼玉県教育委員会編、埼玉県発行
省庁作成地図目録 2 (収蔵地図目録 第5集)	2000年	
西川家文書目録 その1(埼玉県立文書館収蔵文書目録 第39集)	2000年	
西川家文書目録 その2(埼玉県立文書館収蔵文書目録 第40集)	2001年	
埼玉県史料叢書 5 埼玉県史料	2001年	埼玉県教育委員会編、埼玉県発行
森泉家文書目録(埼玉県立文書館収蔵文書目録 第41集)	2002年	
埼玉県史料叢書 13(上) 栗橋関所史料	2002年	埼玉県教育委員会編、埼玉県発行
諸家文書目録 6 (埼玉県立文書館収蔵文書目録 第42集)	2003年	
埼玉県史料叢書 13(下) 栗橋関所史料	2003年	埼玉県教育委員会編、埼玉県発行
小池氏収集文書・小林(正)家文書目録(収蔵文書目録 第43集)	2004年	
埼玉県史料叢書 10(上) 明治大正期知事事務引継書	2004年	埼玉県教育委員会編、埼玉県発行
銚子口区有文書・飯野家文書目録(埼玉県立文書館収蔵文書目録 第44集)	2005年	
岸田氏収集文書目録(埼玉県立文書館収蔵文書目録 第45集)	2006年	
埼玉県史料叢書 7(上) 入間・熊谷県史料	2006年	埼玉県教育委員会編、埼玉県発行
湯本家文書目録(埼玉県立文書館収蔵文書目録 第46集)	2007年	
埼玉県史料叢書 7(下) 入間・熊谷県史料	2007年	埼玉県教育委員会編、埼玉県発行
坂本家文書高橋(周)家文書目録(埼玉県立文書館収蔵文書目録 第47集)	2008年	
埼玉県史料叢書 6(上) 入間・熊谷県史料	2008年	埼玉県教育委員会編、埼玉県発行
古地図を楽しむ	2008年	文書館編、埼玉新聞社発行
諸家文書目録 7 (埼玉県立文書館収蔵文書目録 第48集)	2009年	
埼玉県史料叢書 6(下) 入間・熊谷県史料	2009年	埼玉県教育委員会編、埼玉県発行
新井(尙)家文書目録 1 (埼玉県立文書館収蔵文書目録 第49集)	2010年	
埼玉県史料叢書 14栗橋関所史料	2010年	埼玉県教育委員会編、埼玉県発行
川田氏収集文書目録(埼玉県立文書館収蔵文書目録 第50集)	2011年	
埼玉県史料叢書 11 古代・中世新出重要史料	2011年	埼玉県教育委員会編、埼玉県発行
新井(尙)家文書目録 2 (埼玉県立文書館収蔵文書目録 第51集)	2012年	
埼玉県史料叢書 15 栗橋関所史料	2012年	埼玉県教育委員会編、埼玉県発行
戸谷家文書目録(埼玉県立文書館収蔵文書目録 第52集)	2013年	
埼玉県史料叢書 16栗橋関所史料	2013年	埼玉県教育委員会編、埼玉県発行
諸井(三)家文書目録(埼玉県立文書館収蔵文書目録 第53集)	2014年	
埼玉県史料叢書12中世新出重要史料	2014年	埼玉県教育委員会編、埼玉県発行
諸家文書目録 8 (埼玉県立文書館収蔵文書目録 第54集)	2015年	
埼玉県史料叢書17 埼玉県布達集	2015年	埼玉県教育委員会編、埼玉県発行

飯塚家文書目録(埼玉県立文書館収蔵文書目録 第55集)	2016年	
埼玉県史料叢書 18 埼玉県布達集	2016年	埼玉県教育委員会編、埼玉県発行
黒田(小)家文書目録・諸家文書目録 9(埼玉県立文書館収蔵文書目録 第56集)	2017年	
埼玉県史料叢書 19 埼玉県布達集	2017年	埼玉県教育委員会編、埼玉県発行
埼玉県史料叢書 20 埼玉県布達集	2018年	埼玉県教育委員会編、埼玉県発行
青木家文書目録(埼玉県立文書館収蔵文書目録 第57集)	2019年	
埼玉県史料叢書 22 小室家文書一 三代小室元長日記	2019年	埼玉県教育委員会編、埼玉県発行

○ 埼玉県立図書館

書名	刊行年	備考
町田家文書目録 1(近世史料所在調査報告 1(1))	1965	
町田家文書目録 1-4(近世史料所在調査報告 1)	1966	
町田家文書目録 2(近世史料所在調査報告 1(2))	1966	
町田家文書目録 3(近世史料所在調査報告 1(3))	1966	
町田家文書目録 4(近世史料所在調査報告 1(4))	1966	
根岸家文書目録(近世史料所在調査報告 2)	1967	
平山家文書目録(近世史料所在調査報告 3)	1968	
諸井家文書目録(近世史料所在調査報告 4)	1969	
加藤家・藤井家・稲生家文書目録(近世史料所在調査報告 5)	1970	
会田家・相沢家文書目録(近世史料所在調査報告 6)	1971	埼玉県立浦和図書館
野中家・新井家文書目録(近世史料所在調査報告 7)	1972	埼玉県立浦和図書館
諸家文書目録 1(近世史料所在調査報告 8)	1972	埼玉県立浦和図書館
白石家・浅見家文書目録(近世史料所在調査報告 9)	1973	埼玉県立浦和図書館
土生津家文書目録(近世史料所在調査報告 10)	1975	埼玉県立浦和図書館
武蔵国横見郡和名村鈴木家文書目録(近世史料所在調査報告 11)	1975	埼玉県立浦和図書館

○ 埼玉会館郷土資料室

書名	刊行年	備考
埼玉の河川交通史展(埼玉会館郷土資料室展示 第66回)	1976年	
田中保展(埼玉会館郷土資料室展示 第68回)	1977年	田中保〔画〕、埼玉会館
埼玉の農耕儀礼展(埼玉会館郷土資料室展示 第84回)	1980年	
埼玉県名刀展 第24回 桃山、江戸期の刀	1980年	埼玉県刀剣保存協議会編、発行
埼玉の金銅仏展	1981年	
塾と寺小屋展	1983年	
誕生仏百体	1983年	
埼玉の博物館	1983年	
埼玉の博物館 3 美術館	1984年	
さいたまの獅子頭	1984年	
写真展・荒川 第111回	1985年	
埼玉の力士たち	1986年	

「ザさつまいもー過去・現在・未来ー」	1986年	
絵馬にみる昔の旅	1987年	
かぶりものはきもの展	1988年	
絵に読む平家物語	1988年	
埼玉県名刀展 第32回 室町・桃山時代の刀	1988年	
酒の民俗	1989年	
倉田白羊と弟次郎展	1989年	
埼玉県名刀展 第33回 備前刀	1989年	
埼玉ゆかりの人びとの書	1989年	
竹細工の美	1990年	
埼玉会館所蔵絵画展	1990年	
化粧	1990年	
埼玉県名刀展 第34回 彫り物のある日本刀	1990年	
互井開一展	1991年	
埼玉・昆虫の世界	1991年	
よみがえる異形の鬼たち	1991年	
埼玉県名刀展 第35回 県内秘蔵の名刀	1991年	
いろいろな椅子	1992年	
さいたまの仕事唄	1992年	
さいたま文学散歩	1992年	
さいたまの藍	1993年	
埼玉県名刀展 第36回 大名と刀工	1993年	
埼玉県名刀展 第37回 江戸時代の日本刀	1993年	
石のみほとけ	1994年	

平成20年度～令和元年度の各館の特別展・企画展等一覧

※開催期間が2カ年度に及ぶ展覧会は開始年度に記載

○ 歴史と民俗の博物館特別展等一覧

年度		展示会名称
平成 20	夏	企画展「埼玉サッカー100年」
	秋	特別展「名もなき至宝ーうけつがれし重要有形民俗文化財ー」
	冬	特別展「誕生 武蔵武士」
21	夏	特別展「いただきます～食の文化史～」
	秋	交流企画展「出帳博物館 in 深谷」
	春	特別展「雑兵物語の世界」
22	夏	企画展「ヒーロー参上」
	秋	特別展「仏教伝来 埼玉の古代寺院」
	春	特別展「降嫁150年記念 皇女和宮と中山道」
23	夏	企画展「あそび漫遊」
	秋	特別展「円空 ころろを刻むー埼玉の諸像を中心にー（開館40周年記念展）」
	春	特別展「大名と藩ー天下泰平の立役者たちー」
24	夏	企画展「日本美術夏季学校（サマースクール）」
	秋	特別展「職人のわざとカター商品の誕生ー」
	冬	企画展「埼玉歴史探訪Ⅰー新篇武蔵風土記稿』の世界ー」
	春	特別展「発掘された木の道具」
25	夏	企画展「絵で語る埼玉の民話ー池原昭二・童画の世界ー」
	秋	特別展「狩野派と橋本雅邦ーそして近代日本画へ」
	冬	企画展「圏央道の遺跡～埼玉の発掘調査 西から東から～」
	春	特別展「渋沢敬三没後50周年記念事業 屋根裏部屋の博物館ーA t t i c M u s e u mー」
26	夏	特別展「にっぽん歴史街道 江戸の街道（みち）」
	秋	特別展「甦る鉄剣」
	冬	企画展「埼玉の自由民権」
	春	企画展「大宮公園と氷川神社」
27	夏	特別展「戦国図鑑ーCool Basara Styleー」
	秋	特別展「慈光寺 国宝法華経一品経を守り伝える古刹」
	春	企画展「蔵出し資料ー館有コレクションの優品」
28	夏	特別展「高麗郡1300年 高麗建郡ー物と語りー」
	秋	特別展「徳川家康ー語り継がれる天下人」
	冬	企画展「祝いの民俗 ハレの造形」
	春	企画展「縄文の空間 暮らしと願い」

29	夏	企画展「くらべる古美術ー見て考える美術のひみつー」
	秋	特別展「上杉家の名刀と三十五腰」
	冬	特別展「明治天皇と氷川神社ー行幸の軌跡ー」
	春	企画展「田んぼー埼玉、人と水の風景ー」
30	夏	企画展「古文書 大公開！」
	秋	特別展「ダムと変わる！私たちの暮らし」
	冬	企画展「埼玉の官衙ー律令時代の“お役所”ー」
	春	特別展「東国の地獄極楽」
元	夏	企画展「北沢楽天と時事漫画」
	秋	特別展「子ども／おもちゃの博覧会」
	冬	企画展「縄文時代のたべもの事情」
	春	特別展「武蔵国の旗本」

○ さきたま史跡の博物館企画展等一覧

年度	展示会名称
平成20	企画展「古墳時代の優品」
21	企画展「稲荷山出現以前の古墳」
	ほるとま展 2009「さいたまの弥生時代」
22	企画展「祈りとまじないの考古学」
	テーマ展「さきたまのハニワたち」
	ほるとま展 2010「古代人のエコライフ」
23	企画展「スローフードの考古学」
	テーマ展「埼玉・あの遺跡この遺跡」
	ほるとま展 2011「遺跡に残された古代の技とものづくり」
24	企画展「原始古代の職人集団」
	テーマ展「埼玉の原始・古代」
	ほるとま展 2012「はにわ世界へのいざない」
25	企画展「古代の豪族」
	テーマ展「形と文様」
	ほるとま展 2013「縄文 VS 弥生～埼玉人のルーツをさぐる～」
26	企画展「ハニワの世界」
	テーマ展「縄文の不思議な世界」
	ほるとま展 2014「“もの” はどこで作られどこへ行ったの？」
27	企画展「古墳の終焉と律令時代の幕開け」
	新収蔵品展「旧長瀨総合博物館からの寄贈資料」
	ほるとま展 2015「発掘！古の名品展」
28	企画展「埼玉の古墳1ー比企・入間ー」
	テーマ展「弥生の空間ー実りと祈りー」

	ほるたま展 2016「発掘！古の名品展 Part II +ほるたま動物のもり」
29	企画展「埼玉の古墳2－秩父・児玉・大里－」
	テーマ展「律令国家がやってきた！」
	ほるたま展 2017「彩の国 古代の色と輝き」
30	企画展「埼玉の古墳3－北足立・北埼玉・南埼玉・北葛飾－」
	テーマ展「埼玉の平安－兵の目覚め－」
	ほるたま展 2018「土の中から顔だした」
令和元	企画展「徹底解剖！埼玉古墳群」
	ほるたま展 2019「GuGuっと！縄文」
	テーマ展「埼玉の中・近世」

○ 嵐山史跡の博物館企画展等一覧

年度	展示会名称
平成20	企画展「板碑が語る中世－造立とその背景－」
21	企画展「秩父平氏 畠山重忠とその時代」
22	企画展「遺物が語る 中世の館と城～菅谷館跡の理解のために～」
23	企画展「鎌倉街道をゆく～ひと・モノ・文化～」
24	企画展「中世の災難 合戦と災害」
25	企画展「観音霊場と武士」
26	企画展「道灌の時代－戦国時代は関東から始まった－」
27	企画展「中世黎明～時代を変えた武士と民衆～」
28	企画展「戦国を生き抜いた武将たち」
29	企画展「武蔵武士とその本拠」
29	企画展（合同展）「埼玉保60回記念名刀展 上杉景勝の生きた時代の刀」
30	企画展「越山－上杉謙信侵攻と関東の城－」
令和元	企画展「戦国大名は如何にして軍需を調達したか」

○ 近代美術館

年度	企画展名
平成20	いとも美しき西洋版画の世界
	丸木スマ展
	アーツ・アンド・クラフツ展
	都市を創る建築への挑戦－設計組織のデザインと技術－
	青春のロシア・アヴァンギャルド
21	美術館に行こう！ディック・ブルーナに学ぶモダン・アートの楽しみ方
	長澤英俊展 オーロラの向かう所
	ロシアの夢 1917-1937
	小村雪岱とその時代
	陽のあたる午後、天使の指がそっと版画に見る印象派

2 2	不思議の国の少女たち 山本容子のワンダーランド
	スウィングン・ロンドン 50's - 60's
	アンドリュー・ワイエス展
	植田正治写真展 写真とボク
	ニュー・ヴィジョン・サイタマ4
2 3	アール・ブリュット・ジャポネ展
	彫刻家エル・アナツイのアフリカ
	生誕100年記念 瑛九展
	アンリ・ル・シダネル展
	清水晃・吉野辰海展
2 4	草間彌生 永遠の永遠の永遠
	ウルトラマン・アート! 時代と創造-ウルトラマン&ウルトラセブン
	日本の70年代 1968-1982
	丸沼芸術の森所蔵 ベン・シャーン展 一線の魔術師-
	ポール・デルヴォー展 夢をめぐる旅
2 5	たまもの 埼玉県立近代美術館大コレクション展
	浮遊するデザイン - 倉俣史朗とともに
2 6	ピカソの陶芸 - 地中海にはぐくまれて
	戦後日本住宅伝説 - 挑発する家・内省する家
2 7	private, private -わたしをひらくコレクション
	動く、光る、目がまわる キネティックアート
	すごいぞ、これは!
	旅と芸術 - 発見・驚異・夢想
	原田直次郎展
2 8	ジャック=アンリ・ラルティエグ
	竹岡雄二 台座から空間へ
	NEW VISION SAITAMA 5
2 8	日本におけるキュビズム
	カッサンドル展
2 9	ロシア科学アカデミー図書館所蔵 川原慶賀の植物図譜
	遠藤利克展-聖性の考古学
	駒井哲郎 夢の散策者
	開館35周年記念展 ディエゴ・リベラの時代 メキシコの夢とともに 版画の景色 現代版画センターの軌跡
3 0	モダンアート再訪-ダリ、ウォーホルから草間彌生まで 福岡市美術館コレクション展
	浦沢直樹展 描いて描いて描きまくる! -埼玉の巻-
	阿部展也-あくなき越境者
	辰野登恵子 オン・ペーパーズ A Retrospective 1969-2012 インポッシブル・アーキテクチャー-もうひとつの建築史

令和元	ブラジル先住民の椅子
	May I Start? 計良宏文の越境するヘアメイク
	DECODE/出来事と記録ーポスト工業化社会の美術
	ニューヨーク・アートシーン ーロスコ、ウォーホルから草間彌生、バスキアまで滋賀県立近代美術館コレクションを中心に
	森田恒友展

○ 自然の博物館特別展等一覧

年度	展示会名称
平成20	特別展「巨大昆虫の世界 パート2」 (企画：自然の博物館 運営：川の博物館)
	企画展「多様な埼玉の生きもの」
	企画展「きのこノートー森を支える菌の花ー」
	企画展「多様な埼玉の自然ー入間川の自然ー」
21	特別展「埼玉圏の原始古代人ー人の動きからモノを探るー」 (企画：自然の博物館 運営：川の博物館)
	企画展「鉱物の魅力ー鉱物から資源までー」
	企画展「多様な埼玉の生きものー秩父学入門ー」
	企画展「野外の危険なもの」
22	特別展「葉の世界ーそのかたちと利用を探るー」 (企画：自然の博物館 運営：川の博物館)
	企画展「土の中のワンダーランドーわからんものでいっぱいだー」
	企画展「カエデ&もみじー多様なかたち、山のにぎわいー」
	企画展「秩父のすばらしき大地の魅力 ー秩父の地質と博物館のあゆみー」
23	特別展「発掘・発見 埼玉のふるさと 秩父のおごっつおう」 (企画：自然の博物館 運営：川の博物館)
24	特別展「今だって氷河時代～埼玉からさぐる気候変動～」 (企画：自然の博物館 運営：川の博物館)
	企画展「ジオパーク秩父へのいざない」
	企画展「オオタカは大きくないー鳥たちの世界ー」
25	特別展「和船大図鑑ー荒川をつなぐ舟・ひと・モノー」 (企画：自然の博物館 運営：川の博物館)
	企画展「新参者昆虫図鑑ー多様な埼玉のいきものー」
	企画展「彩発見！埼玉の太古の海の恵み展」
	企画展「どうなっているの？埼玉県の動植物 ーレッドデータブックのいきものー」
26	特別展「恐竜時代～海と陸の支配者たち～」
	特別展「荒川流域の鉱山と産業～地下資源の利用と人々の暮らし～」 (企画：自然の博物館 運営：川の博物館)

	企画展「カラフル昆虫記」
	企画展「お蔵出し新収集品展」
27	特別展「うんち・糞・フン～ダンゴムシからゾウまで～」
	特別展「魚と人の知恵くらべ～魚の生態と伝統漁法～」 (企画：自然の博物館 運営：川の博物館)
	企画展「パレオパラドキシア～大野原標本発掘から40年～」
	企画展「花粉が教えてくれること」
28	特別展「現代有用植物展～くらしと植物のステキな関係～」
	特別展「都幾川・槻川」 (企画：自然の博物館 運営：川の博物館)
	企画展「ジオパーク秩父のアナ」
	企画展「骨と皮～からだを支えるいろんなひみつ～」
29	特別展「秩父鉱山～140種の鉱物のきらめき～」
	特別展「神になったオオカミ～秩父山地のオオカミとお犬様信仰～」 (企画：自然の博物館 運営：川の博物館)
	企画展「埼玉生きもの情報～最新レッドデータブックの世界～」
	企画展「縄文有用植物展 ～クリ植えマメ蒔きウルシを掻いた!?～」
30	特別展「ハチを知る」
	特別展「カモ・鴨～見・知・獲・食～」 (企画：自然の博物館 運営：川の博物館)
	企画展「水晶～鉱物界へのトビラ～」
	企画展「要注意！野外の危険なもの」
令和元	特別展「知って埼玉！化石でたどる2000万年」
	特別展「根・子・ネズミ～ネズミワールドへようこそ～」 (企画：自然の博物館 運営：川の博物館)
	企画展「地図と模型で見る埼玉の大地」

○ 川の博物館企画展等一覧

年度	展示会名称
平成20	特別展「巨大昆虫の世界パート2ーでかい虫・へんな虫ー」
	企画展「描かれた子供の姿とその遊び」(19年度末～)
	企画展「きのこノートー森を支える菌の花ー」
	企画展「カエル・かえる・蛙」
21	特別展「埼玉圏の原始・古代人ー人の動きをモノから探るー」
	企画展「川を旅する魚たち」
	企画展「ボタニカルアート 太田洋愛の桜原画展」
22	特別展「葉～その形と利用～」
	企画展「荒川ハザードマップ」
	企画展「カメ・カニ・スナ～埼玉で海あそび」
	企画展「杉崎夫妻のボタニカルアート展」
	企画展「小松崎茂の世界」

	企画展「コウモリ～bat な春やすみ」
23	特別展「発掘・発見 埼玉のふるさと 秩父のおごっつおう」
	企画展「地図でたどる荒川～川のいろいろがみえます～」
	企画展「ひやっとコオリ～水と氷のフシギ」
	企画展「荒川を歩いて描く」
	企画展「押し花で荒川を描く」
	企画展「日本のボタニカルアートの先人達」
	企画展「世界の運河・日本の運河」
24	特別展「今だって氷河時代～埼玉からさぐる気候変動～」
	企画展「私の8月15日展」
	企画展「土壌モノリス展～日本の土・世界の土」
	企画展「荒川のめぐみ 田んぼのものがたり」
	企画展「埼玉ふるさと野菜の版画＋写真アート展」
	企画展「秩父イワナと荒川水系の自然生物写実絵画展」
	企画展「地図からみえる世界」
	企画展「ボタニカルアート師弟展」
企画展「きんぎょ」	
25	特別展「和船大図鑑～荒川をつなぐ舟・ひと・モノ～」
	企画展「荒川を撮る会 写真展」
	企画展「荒川の水の行方～埼玉県の水と産業～」
	企画展「魚のみち」
26	企画展「荒川流域の生き物絵画展」
	特別展「荒川流域の鉱山と産業～地下資源の利用と人々の暮らし」
26	企画展「もしものに備える」
	企画展「ふしぎ・かっこいい 埼玉と日本の爬虫類」
26	企画展「写真で見る埼玉のいきもの」
	企画展「河川改修の歴史と暮らし」
27	特別展「魚と人の知恵くらべ～魚の生態と伝統漁法～」
	企画展「土ってなんだろう？」
	企画展「地面の下をのぞいてみよう～埼玉の地下に潜む自然誌」
	企画展「もしものに備える～自然災害に備える」
28	企画展「狭山丘陵の両生類たち」
	特別展「都幾川・槻川」
	企画展「あざやかないきものたち～構造色をもった生き物～」
	企画展「ヒョウタン～水入れから楽器、様々に人の生活を支えてきた植物」
29	企画展「荒川水系の生きもの・サイエンスアート展」
	特別展「神になったオオカミ～秩父山地のオオカミとお犬様信仰～」
	企画展「東京藝術大学学生による 調べる『荒川・隅田川水系』作品展」
	企画展「かわはく・荒川20年」
	企画展「荒川・利根川・多摩川の石くらべ」

30	特別展「カモ・鴨～見・知・獲・食～」
	企画展「東京藝術大学学生による 調べる『荒川・隅田川水系』作品展」
	企画展「ネイチャーアート展」
	企画展「荒川改修100周年記念展示」
	企画展「玉淀今昔物語～田山花袋が絶賛した溪谷美～」(～令和元年度春)
令和元	特別展「根・子・ねずみ～ネズミワールドへようこそ～」
	企画展「東京藝術大学学生による 調べる『荒川・利根川・多摩川』作品展」
	企画展「水車は日本の原風景だ」

○ さいたま文学館

年度	展示会名称
平成20	企画展「よみがえる歴史ヒーローの伝説」
	企画展「石井桃子とピターラビット」
	企画展「かな女と楸邨」
	企画展「マンガ聖地巡礼 in サイタマ」
21	企画展「絵本「彩」、発見」
	企画展「埼玉人物伝」
	企画展「田舎教師が愛した景色」
	企画展「文学館に猫大集合」
22	企画展「森は海の恋人」
	企画展「ドリトル先生とゆかいな家族」
	企画展「埼玉ゆかりの歌人たち」
	企画展「文学館の宝箱」
23	企画展「秋谷豊 地球の詩人」
	企画展「戦後の児童雑誌」
	企画展「武蔵野を詠む」
	企画展「直木賞文学と埼玉」
24	企画展「荒川と文学」
	企画展「宝箱2」
	企画展「中島敦が見つめた世界」
	企画展「関東大震災と東日本大震災」
25	企画展「文学者の絵」
	企画展「校歌 ーいちばん身近な詩」
	企画展「近代俳句の革命児 水原秋櫻子」
	企画展「文字は語るー手書きのあじわい」
26	企画展「俳毒庵 中野三允」
	企画展「森田恒友と文芸雑誌」
	企画展「利根川と文学」
27	企画展「風と光の詩人 宮澤章二」
	企画展「秋山正香」

	企画展「百人一首」
28	企画展「考古学と文学」
	企画展「宮沢賢治 秩父路を行く」
	企画展「平将門—文学は史実を越えて」
	企画展「虚子 かな女 癖三酔-書と画で楽しむ俳句」
29	企画展「文学館の宝箱」
	企画展「さいたまの妖怪」
	企画展「埼玉の文学散歩」
29	企画展「武蔵野のおもかげ」
30	企画展「実篤と元麿」
	企画展「田山花袋と明治の文学」
	企画展「詩人・吉野弘 やさしいまなざし」
	企画展「百花斉放—文学者の書」
令和元	企画展「「文芸埼玉」創刊号ゆかりの人々」
	企画展「絵本作家 飯野和好」
	企画展「ピーターラビットの世界展」

○ 文書館

年度	展示会名称
平成20	平成20年度新公開資料紹介「坂本家・高橋（周）家の古文書」
	スポーツの祭典 IN 埼玉
	埼玉県の災害
	文書館資料が語る埼玉県の誕生とあゆみ
	幕末・維新の「好古家」たち—比企・吉見の里から—
21	重要文化財が記録する川越
	新公開古文書の紹介
	江戸時代の石塔建立
	近代をひらく 鉄道 記録が伝える近代 —埼玉県行政文書という世界—
	村絵図を読む
	江戸近郊の俳諧
22	新公開「新井（尙）家文書」
	県報という名のメディア —公報誌の明治・大正・昭和—
	埼玉から見た日露戦争
	中世文書の世界 —鎌倉～室町時代の文書—
23	渋沢栄一と埼玉の近代 —創業期の日本煉瓦製造株式会社—
	新公開「川田氏収集文書」
	明治・大正の社会教育 —行政文書に見る埼玉のまなび—
	栗橋関所関係文書展1 —日光社参と栗橋関所—

24	初公開！新井（侖）家文書～地方の俳諧宗匠を務めた新井家～
	銅版画にみる近代日本の風景
	栗橋関所関係文書展2 ー幕末の動乱と栗橋関所の廃止ー
25	栗橋関所関係文書展2 ー幕末の動乱と栗橋関所の廃止ー
	新公開古文書「戸谷家文書」
	ー100年前の埼玉ブランドー公文書が伝える産業・ものづくり
	地図アラカルト 世界と地域
26	中世文書の世界Ⅱ ー戦国時代の文書ー
	新公開「諸井（三）家文書ー近代へと続く道」
	重要文化財公開展「埼玉県行政文書」
	河川図 かわのえず・かわのちず
	中世文書の世界Ⅲ ー館有文書あらかるとー
27	中世文書の世界Ⅲ ー館有文書あらかるとー
	小室家文書展 ー在村医のまなざしー
27	SAITAMA 食べものヒストリー ～行政文書が語る食文化～
	地図のひみつ ひみつの地図
	埼玉の県令Ⅰ 第2代県令 白根多助
28	埼玉の県令Ⅰ 第2代県令 白根多助
	新公開「飯塚家文書 ー深谷と歩むー」展
	重要文化財公開展「埼玉県庁舎ものがたり～文書と写真でたどる百四十五年のあゆみ～」
	絵図から地図へ「城下町の近代化 ー忍・川越・岩槻ー」
	埼玉の県令Ⅱ 吉田清英展 ー県令が見た埼玉の明治ー
29	埼玉の県令Ⅱ 吉田清英展 ー県令が見た埼玉の明治ー
	新公開「黒田（小）家文書・諸家文書」展
	文書館収蔵文書展「関東管領上杉氏と埼玉の戦国武将」 *会場 県立歴史と民俗の博物館 季節展示室
30	企画展「古文書 大公開！ーみる・よむ・しらべる埼玉ー」 *県立歴史と民俗の博物館との共催展示
令和元	開館50周年&リニューアル記念企画展「埼玉の“ふみくら”ー古文書から日本の歴史を見るー
	開館50周年&リニューアル記念企画展「熊谷の記録と文化ーRWCの地を訪れるー」
	開館50周年&リニューアル記念企画展 国宝重要文化財 埼玉県行政文書公開「鉄道の埼玉ー明治から現代へー」
	開館50周年&リニューアル記念企画展「生活に役立つ地図」

埼玉県文化財保存活用大綱（案）に対する御意見

ページ	御意見
<p>住所（法人等の場合は主たる事務所の所在地） 〒</p> <p>※通勤・通学場所のある市町村名 _____市・町・村 （県外にお住まいの個人の場合）</p> <p>連絡先の電話番号 _____</p>	
氏名（法人の場合は名称及び代表者の氏名）	

（注）・意見を提出できるのは、県内に住所を有する個人、法人、団体及び県内への通勤・通学者です。

- ・御意見については、この様式を御利用いただくか、任意の書面により上記項目を記載し御提出ください。

【募集期間】令和元年11月1日（金）～令和元年11月30日（土）（必着）

【提出方法】郵送、ファクシミリ、電子メールのいずれかの方法で提出してください。

電話等による口頭での意見はお受けできませんので、御了承ください。

- ・郵送 〒330-9301（住所は省略できます）
埼玉県文化資源課 指定文化財担当あて

- ・FAX 048-830-4965

- ・メール a6910-04@pref.saitama.lg.jp

（いずれも件名を「埼玉県文化財保存活用大綱（案）への意見」としてください。）